

目次

1. 学則変更（収容定員変更）の内容	P. 2
2. 学則変更（収容定員変更）の必要性	P. 2
3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更	P. 3

学則の変更の趣旨等を記載した書類

1. 学則変更（収容定員変更）の内容

熊本大学医学部医学科の平成 20 年度以降の入学定員については、平成 21 年度に「緊急医師確保対策」に基づき平成 29 年度までの期限を付した 5 名の臨時定員増（平成 29 年度に平成 31 年度まで延長）及び「経済財政改革の基本方針 2008」に基づき 5 名の恒久定員増を、また、平成 22 年度に「経済財政改革の基本方針 2009」に基づき平成 31 年度までの期限を付した 5 名の臨時定員増をそれぞれ実施した。

平成 31 年度を期限とする 10 名の入学定員について、令和 3 年度までの期限を付した再度の入学定員 5 名増を行い、令和 2 年度の入学定員を再度の定員増を行わなかった場合の 105 名から 110 名に増員を行った。

さらに、地域の医師確保等の観点から、令和 2 年度からの増加と同様の枠組みを維持し、令和 6 年度まで入学定員 5 名増を行い、令和 7 年度の入学定員についても定員増を計画し、定員増を行わなかった場合の 105 名から 109 名に増員を行う。

これにあわせて、収容定員についても令和 7 年度のための臨時の入学定員増を踏まえ、再度の定員増を行わなかった場合の 630 名から 634 名に増員する。

2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

熊本県の医療施設に従事する医師数は、人口 10 万人当たり、297.0 人（厚生労働省「令和 2 年医師・歯科医師・薬剤師調査」）で、全国平均 256.6 人を上回っている。

しかしながら、熊本市と熊本市以外の地域を比較すると、熊本市（熊本・上益城圏域）では、428.2 人であるのに対して、熊本市以外の地域では、199.9 人となっている。熊本県の医療施設に従事する医師数（令和 2 年：5,162 人）について、その 6 割が熊本市に集中している。平成 22 年から令和 2 年の間に、人口 10 万人当たりの医師数が熊本市内は 49.7 人増加したのに対し、熊本市外は 24.5 人と、同程度に増加しているものの、未だ医師の地域偏在は大きい状況である。【資料 1】

また、熊本県の地域医療における将来推計として、2036 年に向けて、県全体では人口は減少傾向にあるものの、医療需要は増加傾向にあり、厚生労働省の計算によると、将来時点において、複数の圏域で医師が不足する可能性がある。【資料 2】

これまで、熊本大学では、熊本県と連携し、地域や診療科の医師確保の観点から、平成 19 年度の「緊急医師確保対策」に基づく 5 名の増員及び「経済財政改革の基本方針 2008」に伴う 5 名の増員によって、平成 21 年度から入学定員を 10 名増員した。

さらに、平成 22 年度からは、「経済財政改革の基本方針 2009」により、熊本県医師修学資金（地域枠）の給付を条件とした推薦入試（地域枠）を新設し、5 名増とした。

そして、令和 2 年度からは、平成 31 年度までに認可を受けた臨時的な定員数 10 名から 2 年間を通じて地域枠の学生を確保できていない定員数 4 名を減じた数 6 名を上限として増員申請数を熊本県と協議し、令和 3 年度までの期限を付した再度の入学定員 5 名増を行い、

令和 6 年度まで継続した。

今回、熊本県から、上記のような状況を踏まえ、本学に対して地域医療に従事する医療人育成及びその増員の延長について要望があったため、令和 2 年度からの増加と同様の枠組みを維持し、令和 7 年度については 4 名の増員を行う。

3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更

（1）教育課程の変更内容

これまで入学定員 110 名の中で教育を実施しており、増員後の 109 名とした場合でも、教育課程の変更を伴うことなく、同等の内容を担保できる。

なお、教育内容の充実のため、令和 5 年度から「地域医療総合演習」を開講し、様々な地域で行う診療において医師が求められる資質や能力を学修することに加えて、教育を実践するために必要な基礎的な知識について学修する機会を設けている。

（2）教育方法及び履修指導方法の変更内容

医学教育モデル・コア・カリキュラムに求められている項目に関して、「地域医療のあり方と熊本県の現状と課題について講義し、医師として地域医療に貢献するためにはいかなる能力を身に付けるべきか」という観点から、地域医療の概要と実態について、以下の講義を行う。

また、熊本県内の地域医療とそれを取り巻く状況を学修し、「地域医療に従事する医師としてどのような実践能力を身につけるべきか」という観点から、以下の実習を行う。

上記については、これまで入学定員 110 名の中で実施しており、増員後の 109 名とした場合でも、教育方法及び履修指導方法の変更を伴うことなく、同等の内容を担保できる。

【講義科目】

科目名	対象年次	地域医療に係る授業概要
社会医学 (令和 5 年度以前の入学者は「公衆衛生学」、「医療と社会」等の授業科目で履修)	4	地域医療に求められる医師としての役割と機能及び体制などの地域医療のあり方を学修する。さらに地域における保健（母子保健、老人保健、精神保健、学校保健）・医療・福祉・介護の分野間の連携及び多職種間の連携の必要性を講義し、現状と課題さらにあるべき姿を考察できるようにする。また、地域保健医療計画、衛生行政、地域保健における保健所の活動についても学修する。 また、一部を地域医療の講義にあて、地域医療に求められる医師としての役割と機能及び体制などの地域医療のあり方を学修する。また、熊本県における医師の偏在（地域及び診療科）の現状とその理由

		を学ぶ。さらに地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解する。 (具体的な講義項目) ア 社会保障・社会福祉の理念：自由権から生存権 社会保障の目的・理念：責任の所在の変遷 イ 地域における福祉施設の体系と機能：①在宅と施設、②老人関係施設の種類→養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設 ウ 介護保険法制定後の老人福祉・医療施設の現状 エ 地域における健康福祉システム(地域リハビリテーション) オ 地域保健・保健所の機能 カ 医療法、医療保険制度 キ 地域医療の実際 ク 患者中心の医療
--	--	---

【実習科目】

科目名	対象年次	地域医療に係る授業概要
地域医療・福祉体験実習コース (令和4年度以前の入学者は「早期臨床体験実習Ⅰ」の授業科目で履修)	1	地域医療機関や介護老人保健施設の体験実習を行う。今後は体制が整えば、保健所についても実施する。もって地域保健医療計画、衛生行政、保健所活動について、熊本県の地域保健について学ぶ。
熊本大学病院医療体験実習コース (令和4年度以前の入学者は「早期臨床体験実習Ⅱ」の授業科目で履修)	2	熊本大学病院における体験実習によって、医学を学ぶためのモチベーションと患者と接する態度の向上の更なる獲得はもとより、先進医療の現場における診療体制の実際を見学・体験し、医師・スタッフ・患者とのチーム医療のあり方の理解をより深める。
臨床医学Ⅱ (令和5年度の入学者は「地域医療・プライマリケア体験実習コース」の授業科目で履修。令和4年度以前入学者は「早期賃料体験実習Ⅲ」の授業科目で履修。)	3	地域医療機関(地域開業診療所等)の現状を自らの目で知ることを目的とした見学型実習を行う。もって熊本県の地域医療について学ぶ。
臨床実習Ⅰ (令和5年度以前の入学者は「臨床実習」の授業科目で履修)	4、5	地域医療に貢献するためにはプライマリ・ケアの能力が必要である。そのため、「臨床実習」の際に、救急車同乗実習を行い、熊本市消防署が行っている救

科目で履修。)		急業務の実態を見学し、救急現場での初期対応を学び、併せて熊本市における救急患者受入れ状況を知ることを通し地域救急医療の現状を学ぶ。さらに体制が整えば、災害救急医療におけるトリアージを学ぶ。また、地域医療機関に学生を派遣して、地域のプライマリ・ケアの体験を充実させる。もって地域医療の基礎となるプライマリ・ケアの必要性を理解させ、医師としてどのような実践能力を身に付けるべきか学ぶ。
臨床実習Ⅱ (令和5年度以前の入学者は「特別臨床実習」の授業科目で履修)	5、6	地域医療機関の中から、2015年に、熊本県北部の地域医療機関の中核である公立玉名中央病院からの寄附を受け、地域医療の実践教育を行う施設として、玉名教育拠点が開設され、寄附講座教員が常駐して、地域医療を志す医師、研修医及び医学生に対し、実践教育の場を提供している。さらに2019年からは、熊本県天草地区の地域医療機関の中核である天草地域医療センターからの寄附を受け、天草教育拠点が開設され地域医療を志す医師、研修医及び医学生に対し、実践教育の場を提供している。これらの施設において、地域医療の実際を体験し、医師としてどのような態度・能力が求められているか学修する。
地域医療総合演習	5	様々な地域で行う診療において医師が求められる資質や能力の中から一つのテーマを選択し協働的に学修することに加えて、教育を実践するために必要な基礎的な知識について学修する。そして、選択したテーマについて地域医療ゼミに参加する後輩や同僚に対して教育を実践する。教育的な実践やその準備などの一連の経験を通して、テーマについて深い学びを得ることや将来の医療者教育の素地を涵養する。

(3) 教員組織の変更内容

医学部医学科の基幹教員を280名以上配置し、収容定員変更後の教育課程を実施・運営するための教員を十分に配置している。

平成28年4月に設置された「地域医療・総合診療実践学寄附講座」の教員を主体として、熊本県における地域医療の現状、地域医療に求められる医師像、地域医療における医療連携などを教授し、地域医療への関心を醸成し、熊本県地域医療構想についても理解を

深めている。

また、地域医療を含む医学教育全般を統括する組織として平成 22 年度に設置した「臨床医学教育研究センター」においても、「地域医療・総合診療実践学寄附講座」との連携を図りながら、地域医療教育を充実させている。

さらに、令和 5 年 1 月に、医学教育を支援することを目的とした「総合医学教育学講座」を設置し、医学教育の更なる充実を図っている。

（４）施設・整備の変更内容

平成 22 年度に設置した「臨床医学教育研究センター」に教育・学習スペースとして、チュートリアル室を増設し、地域医療連携を推進するため平成 12 年度に設置した「総合臨床研修センター」では、地域医療を担う医学部生や卒後臨床研修医の医療技術の修得・向上を目的とした基本的救命処置シミュレーター、心音シミュレーター、肺音シミュレーター等の各種臨床実地トレーニングシステムを整備しており、教育環境の充実を図ることができている。

資料目次

資料 1	第 8 次熊本県保健医療計画（抜粋）	P. 8
資料 2	熊本県の地域医療における現状・課題（抜粋）	P. 12
資料 3	「令和 7 年度入学定員増員計画」の写し	P. 15
資料 4	教育課程等の概要	P. 55

一部抜粋

第 8 次

熊本県保健医療計画

2024年度～2029年度

令和 6 年 (2024年) 3 月

熊 本 県

第4章

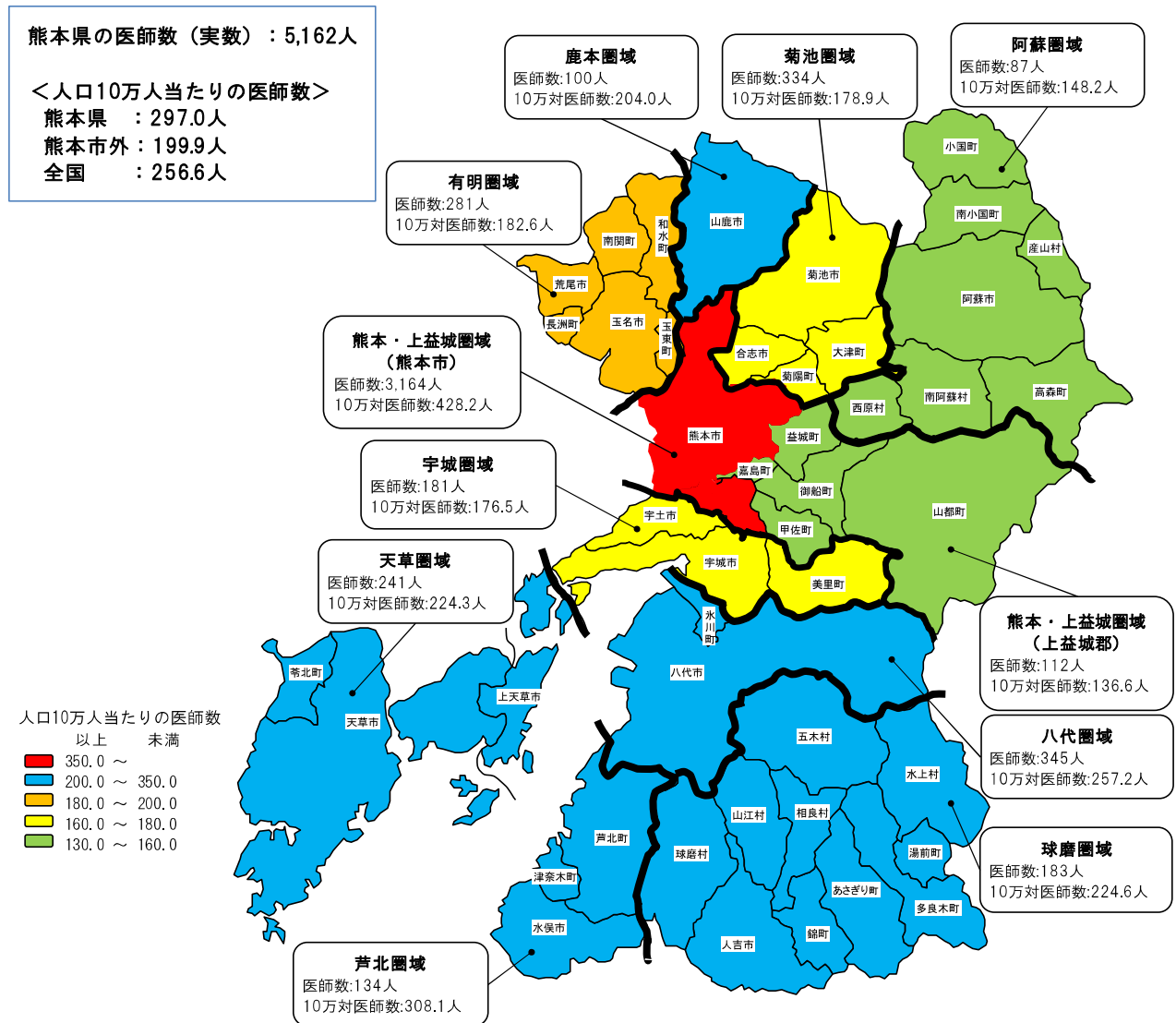
地域の保健医療を支える 人材の確保・育成

第1節 医師

1. 現状と課題

- 本県の医療施設に従事する医師数（令和2年：5,162人）については、その6割が熊本市に集中しています（図1参照）。平成22年（2010年）から令和2年（2020年）の間に、人口10万人当たりの医師数が熊本市内は49.7人（13.1%）増加したのに対し、熊本市外は24.5人（14.0%）と、同程度に増加しているものの、未だ医師の地域偏在は大きい状況です（表1参照）。

【図1】県内の医療施設従事医師数



厚生労働省「令和2年医師・歯科医師・薬剤師統計」を基に熊本県医療政策課作成

【表1】県内の人口10万人当たりの医療施設従事医師数の推移（人）

圏域名	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年	平成30年	令和2年	平成22年→令和2年	
							増減数	増減率
全 国	219.0	226.5	233.6	240.1	246.7	256.6	37.6	17.2%
熊本県	257.5	266.4	275.3	281.9	289.8	297.0	39.5	15.3%
熊本・上益城	329.6	352.1	367.4	379.6	385.3	399.1	69.5	21.1%
熊本市	378.5	394.6	407.6	413.1	414.1	428.2	49.7	13.1%
上益城郡	130.4	136.1	140.5	137.4	144.8	136.6	6.2	4.8%
宇 城	159.5	167.3	168.4	164.1	175.2	176.5	17.0	10.7%
有 明	167.0	167.9	173.9	180.7	203.4	182.6	15.6	9.3%
鹿 本	166.1	175.5	175.3	187.4	206.4	204.0	37.9	22.8%
菊 池	170.0	175.6	172.3	176.7	178.0	178.9	8.9	5.2%
阿 蘇	119.4	121.2	140.7	136.3	134.4	148.2	28.8	24.1%
八 代	208.3	205.5	220.1	229.4	243.5	257.2	48.9	23.5%
芦 北	262.9	266.1	277.2	290.1	289.2	308.1	45.2	17.2%
球 磨	183.7	179.6	179.4	201.0	216.8	224.6	40.9	22.3%
天 草	193.3	196.5	196.6	200.7	220.4	224.3	31.0	16.0%
熊本市外	175.4	177.9	182.3	187.8	199.3	199.9	24.5	14.0%

厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査（統計）」を基に熊本県医療政策課作成

- ヘき地等の地域の医療機関で勤務する自治医科大学卒業医師や医師修学資金貸与医師は、令和4年度(2022年度)に38人、令和5年度(2023年度)に47人と着実に増加しており、今後も増加が見込まれます。一方、これらの医師の中には、地域勤務の際の専門医資格の取得、更新に対する不安など、地域勤務に不安を抱く医師もいることから、不安解消のための支援体制の強化等が求められています（表2参照）。

【表2】地域の医療機関で勤務する自治医科大学卒業医師及び医師修学資金貸与医師数の推移（人）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
自治医科大学卒業医師	14	14	13	14	15	15	13	13
医師修学資金貸与医師	-	1	5	7	12	17	25	34
合 計	14	15	18	21	27	32	38	47

熊本県医療政策課作成

- 本県の令和2年(2020年)の医師全体に占める女性の割合は19.2%と年々増加しており、特に39歳以下の若年層では32.4%となっています。また、自治医科大学卒業医師や学生、医師修学資金貸与医師や学生に占める女性の割合は約40%となっており、地域で勤務する女性医師や子育てをする医師の就労継続に向けた環境整備が求められています。

2. 目指す姿

- 熊本県の地域医療や医師偏在の状況等を踏まえ、大学病院、県医師会、関係医療機関及び県が連携し、地域医療を支える医師を養成・確保することにより地域における医療提供体制を強化し、地域において安定的に医療を提供できる体制を構築します。

令和元年度 第2回熊本県地域医療対策協議会	資料 1-2
令和元年10月1日	

一部抜粋

熊本県の地域医療における現状・課題

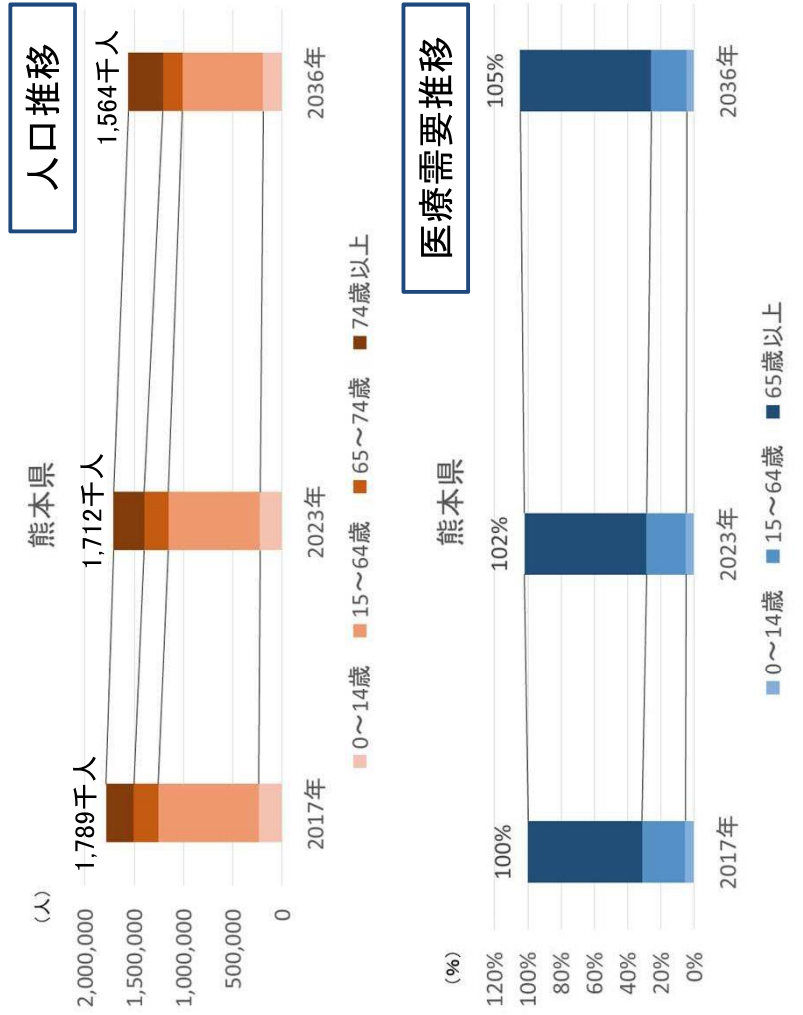
- 第1回熊本県地域医療対策協議会(7/2開催)資料を一部再掲
- 掲載データについては今後、可能な限り最新データを反映

熊本県健康福祉部

熊本県の地域医療における将来推計

1. 人口・医療需要の推計

- 2036年に向けて、県全体では人口は減少傾向にあるものの、医療需要は増加傾向。
- ただし、圏域ごとに見ると、2036年に向けて医療需要が増加又は現状維持となるのは熊本・上益城、宇城及び菊池圏域のみ。



二次医療圏名	医療需要の推移 (2017年を100%)	
	2023年	2036年
県全体	102%	105%
熊本・上益城	108%	118%
宇城	101%	100%
有明	98%	92%
鹿本	96%	90%
菊池	107%	121%
阿蘇	98%	93%
八代	97%	92%
芦北	94%	83%
球磨	95%	87%
天草	94%	84%

熊本県の地域医療における将来推計

令和元年7月2日 第1回熊本県地域医療対策協議会資料を一部改編のうえ再掲

2. 厚生労働省資料に基づく2036年の必要医師数

- 厚生労働省の計算によると、将来時点において、複数の圏域で医師が不足する可能性。

将来時点（2036年）における必要医師数

※下位：過去の医師増減実績を最小に見積もっても達成できる医師数
上位：過去の医師増減実績を最大に見積もった時の医師数

二次医療圏名	2036年				
	必要医師数①	供給推計		過剰医師数 (②－①)	不足医師数 (③－①)
		下位②	上位③		
熊本県全体	4086	4576	6476	－	－
熊本・上益城	2264	2955	4181	690	－
宇城	289	147	208	－	▲ 81
有明	396	253	358	－	▲ 38
鹿本	139	87	123	－	▲ 17
菊池	500	283	401	－	▲ 99
阿蘇	190	75	106	－	▲ 84
八代	355	294	416	－	－
芦北	131	125	177	－	－
球磨	241	156	220	－	▲ 21
天草	306	202	285	－	▲ 21

(厚生労働省 医師需給分科会資料(H31.3.22))

令和 7 年度
医学部入学定員増員計画

熊大経企 第 16 号
令和 6 年 8 月 22 日

文部科学省高等教育局長 殿

国立大学法人熊本大学長
小 川 久 雄

「地域の医師確保等の観点からの令和 7 年度医学部入学定員の増加について（令和 6 年 8 月 7 日文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

< 連絡先 >

責任者連絡先	職名・氏名	経営企画本部課長・勇崎 剛
	TEL	0 9 6 - 3 4 2 - 3 9 7 1
	FAX	0 9 6 - 3 4 2 - 3 0 0 7
	E-mail	sgo-kikaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp

大学名	国公立
熊本大学	国立

1. 現在（令和6年度）の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
110	0	0	665



（収容定員計算用）

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	計
(ア) 入学定員	115	110	110	110	110	110	665
(イ) 2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	115	110	110	110	110	110	665

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和7年度の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
105	0	0	630



（収容定員計算用）

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	計
(ア) 入学定員	105	105	105	105	105	105	630
(イ) 2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	105	105	105	105	105	105	630
（臨時的な措置で減員した場合、その人数）	0	0	0	0	0	0	

3. 令和7年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
109	0	0	634



（収容定員計算用）

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	計
(ア) 入学定員	109	105	105	105	105	105	634
(イ) 2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	109	105	105	105	105	105	634
（臨時的な措置で減員した場合、その人数）	0	0	0	0	0	0	

増員希望人数	4
--------	---



（内訳）

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増（地域枠）	4
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増（研究医枠）	0
計	4

1. 地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数 4

(1) 対象都道府県名及び増員希望人数

都道府県名	増員希望人数
大学が所在する都道府県 熊本県	4
大学所在地以外の都道府県	
計	4

※「大学所在地以外の都道府県」が5都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(2) 修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	R5地域枠定員 (※1)	R5貸与者数 (※2)	R6地域枠定員 (※1)	R6貸与者数 (※2)	R5とR6の貸与 者数のうち多い 方の数
熊本県	5	8	5	7	8
					0
					0
					0
					0
計	5	8	5	7	8

(※1) 臨時定員分のみご記入ください。

(※2) 恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。

※6都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(3) 令和7年度地域の医師確保のための入学定員増について

1. 大学が講ずる措置

1-1. 地域枠学生の選抜

①令和5年度に実施した地域枠学生(令和6年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数	うち臨時定員分		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	診療科の選定の有無	(診療科の選定(推奨)がある場合)その診療科名	開始年度	備考
熊本県医師修学資金地域枠(学校推薦型選抜Ⅱ(地域枠))	(i) 学校推薦型選抜	別枠(先行型)	8		5	大学入学共通テスト、推薦書、調査書、志望理由書(地域医療に対する抱負や意見について800字程度)及び面接の成績により総合的に判定する。	熊本県内の高等学校が推薦できる人数は、一つの学校から54人以上とする。 熊本県内の高等学校が推薦できる人数は、一つの学校から3人以上とし、出願時において保護者が3年以上継続して熊本県内に在住(住民登録)している者を対象とする。なお、学校推薦型選抜Ⅱ(一般枠)及び(みらい医療枠)との併用はできない。 志望学科への入学の意志が強い、かつ将来、熊本県の地域医療を目指す者で、次の1)～4)までの全ての要件を満たすもの 1) 高等学校(特別支援学校の高等部を含む。)又は中等教育学校を令和4年3月以降に卒業した者及び令和6年3月卒業見込みの者 2) 上記1)の教育施設における学習成績の状況が4.0以上であって、将来、熊本県の地域医療において中心役割を担う人材であると判断でき、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者 3) 令和6年度大学入学共通テストの5教科7科目以上を受験した者 4) 合格した場合、熊本県医師修学資金の貸与を受け入学し、在学中は継続して貸与を受けることを確約できる者(注) (注)卒業後の決められた一定期間、熊本県医師が指定する地域の病院等で勤務すること。 5) 合格した場合、卒業後、専門領域として選定する診療科について、以下のいずれか1つを推奨されていることを十分に理解の上、入学することができる者 【選定を推奨する診療科】 総合診療科、救急科、内科、外科、小児科、産婦人科、整形外科	有(推奨)	総合診療科、救急科、内科、外科、小児科、産婦人科、整形外科	H22	
合計			8		5						

(※1) 貴大学において作成した学生募集要項に記載の内容をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

②令和6年度に実施する地域枠学生(令和7年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。 また、参考としてPRのために作成した文書（リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等）の写しをご提出ください。																	
名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法（※1）	出願要件（※1）	診療科の選定の 有無	(診療科の選定 (推奨)がある場合) その診療科名	開始年度	備考							
			うち臨時定員分														
熊本県医師修 学資金地域枠 (学校推薦型 選抜Ⅱ(地域 枠))	(ⅰ) 学校推薦 型選抜	別枠 (先行 型)	8	4	大学入学共通テスト、推薦書、 調査書、志望理由書(地域医 療に対する抱負や意見について 800字程度) 及び面接の成績に より総合的に判定する。	熊本県内の高等学校が推薦できる人数は、一つの学校の5人以内とする。 熊本県外の高等学校が推薦できる人数は、一つの学校の3人以内とし、は試験において保護者(注1)が5人以上継続して熊本県内に在住(住民登録)している者を対象とする。なお、学校推薦選抜Ⅱ（一般枠）及び（みらい医療枠）との併報はできない。 志望学科への入学の意思が強い。かつ将来、熊本県の地域医療を担う者で、次の(201)～(4)までの全ての要件を満たすもの 1) 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を令和5年3月以降に卒業した者及び令和7年3月卒業見込みの者 2) 上記1)の教育施設における全体の学習成績の状況が4.0以上であって、将来、熊本県の地域医療において中心的役割を担う人材であると判断でき、人物・能力及び個性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者 3) 令和7年度大学入学共通テストの6教科8科目以上を受験した者 4) 合格した場合、熊本県医師修学資金の貸与を受け入学し、在学中は継続して貸与を受けることを確約できる者（注2） 5) 合格した場合、卒業後、専門領域として選択する診療科について、以下のいずれかものを推奨されていることを十分に理解の上、入学することできる者 【選択を推奨する診療科】 総合診療科、救急科、内科、外科、小児科、産婦人科、整形外科 ※いずれも新専門医制度の基本領域における診療科を指す。 （注1）熊本大学における保護者の定数は、次のとおりとする。（学校教育法が引用） 子に対して親権を行う者（親権を行う者のないとは、未成年後見人）をいう。 （注2）卒業後の決められた一定期間、熊本県医師が指定する地域の病院等で勤務すること。	有（推奨） 総合診療科、救急科、内科、外科、小児科、産婦人科、整形外科	H22									
合計			8	4													

（※1）貴大学において、PRのために作成した文書（リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等）に記載の内容（貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容）をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

1-2. 教育内容

①地域枠学生が卒後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からの教育内容の概要（令和7年度）について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。

1年次には、必修科目「地域医療・福祉体験実習コース」にて、療養型病院など地域の医療・介護・福祉の現場で患者や住民の側から医療・福祉をみる体験を積み、患者と接する態度を学び、3年次には、必修科目「早期臨床体験実習Ⅲ（令和5年度入学者からは「地域医療・ブライマリケア体験実習コース」の科目名で開講）」にて、熊本県内各地の診療所等での体験実習を通じ、地域医療への理解を深めている。また、平成30年度から「特別臨床実習」の地域医療実習を必修化し、加えて令和5年度から「地域医療総合演習」を開講する等、地域医療に関する教育を充実させている。	（参考：記入例） 1～2年次には、「○○」という科目を開講するとともに「△△」を必修化し、～～を学んでいる。3～4年次には、××実習を行い、～～を学んでいる。またキャリア支援として□□を実施している。令和7年度からは、■を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。
---	---

②（過去に地域枠を設定したことがある場合）これまでの取組・実績を、3～5行程度で簡潔にご記入ください。

平成21年度から地域枠による増員を開始し、熊本県医師修学資金地域枠の周知、地域枠学生へのキャリア形成支援などの取組を行ってきた。令和6年度までに100名の地域枠学生を確保し、令和6年4月現在、32名の修学資金貸与医師が地域（へき地の医療機関を含む。）の医療機関で地域医療に貢献している。	（参考：記入例） 平成○年度から地域枠による増員を開始し、□□、■などの取組を行ってきた。令和6年度までに△名の地域枠学生を確保し、そのうち▲名が現在～～として地域医療に貢献している。
---	---

③上記①の教育内容（正規科目）について、講義・実習科目内容をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者（※1）	必修／選択の別		講義／実習の別	単位数	開始年度
			地域枠学生	必修／選択の別 その他の学生			
1	地域医療・福祉体験実習コース（※R5年度入学者からの科目名となり、R4年度以前の入学者は「早期臨床体験実習Ⅰ」の科目名となる。）	全員	必修	必修	実習	R5以降 1.0 (R4以前 1.5)	H27
2	熊本大学病院医療体験実習コース（※R5年度入学者からの科目名となり、R4年度以前の入学者は「早期臨床体験実習Ⅱ」の科目名となる。）	全員	必修	必修	実習	1.0	H28

3	地域医療・プライマリケア体験実習コース（※R5年度入学者からの科目名となり、R4年度以前の入学者は「早期臨床体験実習Ⅲ」の科目名となる。）	全員	必修	必修	必修	必修	1.0	H29
4	医療と社会	全員	必修	必修	講義	講義	1.0	R1
4	公衆衛生学	全員	必修	必修	講義	講義	4.0	H21以前
5,6	特別臨床実習	全員	必修	必修	実習	実習	38.0	H30
5	地域医療総合演習	全員	選択	選択	実習	実習	R6以降0.5 (R5以前1.0)	R5

(※1) 対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。(地域枠学生の希望者のみの場合、対象者を「地域枠学生」、必修／選択の別を「選択」とご記載ください。)
※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	都道府県との連携	期間 (例：〇週間)	プログラムの概要（1～2行程度）	開始年度
全学年	夏季地域医療特別実習	全員	熊本県寄附講座「熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附 講座」が主体として開催	2日間	熊本県医師修学資金被貸与者と自治医科大学学生(熊本県出身)が協力し、聞き取り調査等により、地域の問題点を探り出す。	H21以前
全学年	地域医療ゼミ	全員	熊本県寄附講座「熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附 講座」が主体として開催	毎月1回開催	地域医療に関して、教員によるレクチャー、学生による発表会を実施。	H21以前

(※1) 対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。
※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

②その他、都道府県と連携した取組があれば、簡潔にご記入ください。（例：在学中の学生に対する都道府県と連携した相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援）（1～2行程度）

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度
熊本県地域医療支援機構（熊本大学病院地域医療支援センター）及び熊本県寄附講座「熊本大学病院地域医療・総合診療実践学 寄附講座」による取組	熊本県医師修学資金被貸与者への個人面談実施（年1回以上）、地域医療ゼミ・セミナー・講演会の開催、夏季地域医療特別実習の実施等	H21以前

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

3. その他

1～2に記入したもの以外で、その他、地域の医師確保の観点から大学の今後の取組があれば、簡潔にご記入ください。（1～3行程度）
特に、都道府県からの奨学金の貸与を受ける者、地域枠入学者を確保するために貴大学で取り組まれていることや今後の取組み予定がありましたら、ご記入ください。

令和4年度入試から、新たに学校推薦型選抜Ⅱに「熊本みらい医療枠」（令和6年度入試から「みらい医療枠」に名称変更）を設けた。この枠は卒業後の進路条件を地域枠より緩やかにするなど、志願者が選択できる幅を拡大した。面枠の運用により、熊本県に定着し、地域医療を担う人材の確保を促進する。

令和6年度（2024年度） 学校推薦型選抜 学生募集要項

○学校推薦型選抜 II

（大学入学共通テストを課す）

教 育 学 部
医 学 部
薬 学 部
工 学 部
情報融合学環

インターネットによる出願受付のみ



目 次

アドミッション・ポリシー	1
---------------------------	---

募集人員・出願方法	12
------------------------	----

推薦・選抜方法等

1. 教育学部	14
2. 医学部医学科（一般枠）	23
3. 医学部医学科（地域枠）	25
4. 医学部医学科（みらい医療枠）	28
5. 医学部保健学科	30
6. 薬学部	32
7. 工学部（ア）	34
8. 工学部（イ）	36
9. 情報融合学環（一般枠）	38
10. 情報融合学環（女子枠）	41

出願・受験案内等

1. 出願手続	44
2. 検定料の支払方法	47
3. インターネット出願登録方法	49
4. 受験票及び試験場等案内	64
5. 受験に際しての注意事項	64
6. 合格者発表	65
7. 入学手続	65
8. 合格者に対する注意事項	66
9. 学校推薦型選抜志願者が一般選抜を志願する場合の取扱い	66
10. 障がい等を有する入学志願者との事前相談	67
11. 請求により本人に開示される個人情報	68
12. 個人情報の取扱い	69

学生生活等

1. 学生寄宿舍（学生寮）	70
2. 高等教育の修学支援新制度による入学料・授業料等減免について	71
3. 奨学金	71

参考資料

令和6年度学校推薦型選抜Ⅱ学生募集要項の主な変更点	72
令和5年度学校推薦型選抜Ⅱの実施状況	74
熊本大学位置図	75

医学部

熊本大学医学部では、医学・保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）の発展に寄与し、広く社会に貢献できる医療者・研究者・教育者を育成するために、豊かな人間性、優れた協調性、高い倫理観、十分な基礎学力、科学的探究心、国際的視野を持つ人を求めています。

<医学科>

I 求める学生像

熊本大学医学部医学科の使命

豊かな人間性と高い倫理観を持ち、医学およびその関連領域における社会的な使命を追求、達成しうる医師・医学者を育てる。

アドミッション・ポリシー

熊本大学医学部医学科の使命を達成するために、医学部医学科では、次のような人を求めています。

1. 病める人たちやその家族の気持ちを理解できる人
2. チーム医療の中心的役割を果たすための優れた協調性を持つ人
3. 地域医療に関心を持ち、地域住民の健康増進に貢献する意欲を持つ人
4. 科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医科学研究を展開する意欲に溢れる人
5. 社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保健医療や福祉に深い関心を持つ人
6. 日々進歩する医学や医療の最新知識を吸収できる基礎学力を持ち、生涯にわたって自己学習を継続できる人
7. 医学と医療以外の幅広い分野にも興味を持ち、継続的に教養を深める意欲に溢れる人

II 入学者選抜の基本方針

医学部医学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を踏まえ、基礎的知識（基礎学力）・論理的思考力・判断力・表現力等を評価します。

（医学科への入学までに身につけてほしいこと）

受験生の多様性に合わせて、大学入学共通テスト及び個別学力検査では物理・化学・生物から2科目選択となっていますが、入学後、医学科の様々な専門科目の基礎として、高等学校で学ぶ「生物・生物基礎」は重要な科目です。生物学の教科書はバランス良く構成されており、最新の生命現象についても平易に解説されていますので、幅広く学ぶことが必要です。

また、教科の基礎学力だけでなく、論理的な文章を書くための国語力、グローバルでグローバルな医療の世界での共有言語である英語の素養を十分に身につけ、国際的な広い視野とコミュニケーション能力を備えていることも重要です。

III 選抜方法

【特別選抜】

学校推薦型選抜II

「知識・技能」については、大学入学共通テストを利用して高等学校の教育課程の教科・科目に関する総合的な学力を、個別学力検査により、入学後の学習とより密接にかかわる教科・科目について学力をより深く判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、推薦書、調査書、小論文及び面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。

※ 各選抜で特に重視するポイント（◎：特に大きい比重，○：大きい比重）

評価観点 入試区分	学力の3要素			求める人材像 (アドミッション・ポリシー)		
	知識・技能 (基礎学力)	思考力, 判断力, 表現力	主体性, 多様性, 協働性	チーム医療に 必要とされる コミュニケーション能力・ 協調性	地域医療 への関心 ・貢献	医科学研究への関 心・持続 的な学習 意欲
前期日程	◎	◎	◎	◎	◎	◎
学校推薦型選 抜Ⅱ（一般枠）	◎	◎	◎	◎	◎	◎
学校推薦型選 抜Ⅱ（地域枠）	◎	◎	◎	◎	◎	◎
学校推薦型選 抜Ⅱ（みらい 医療枠）	◎	◎	◎	◎	◎	◎
私費外国人 留学生選抜	◎	◎	◎	○	○	○

＜保健学科＞

I 求める学生像

保健学（看護学，放射線技術科学，検査技術科学）の発展を担い，広く社会に貢献できる資質の高い医療者・研究者・教育者を育成するために，保健学科では保健学科の求める学生像を踏まえ，次のような人を求めています。

1. 看護職（看護師，保健師，助産師）並びに診療放射線技師，臨床検査技師という職業に魅力を感じ，専門分野において地域貢献するとともに，国際的な広い視野で物事を考え，活躍する意欲と熱意のある人
2. 人間に対する尊厳の念を持ち，多様な価値観を受け入れる寛容さと優れた協調性を備えた人間性豊かな人で，医療における高い倫理観とマナーを育ていける資質を持った人
3. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解した上で，国語，外国語とともに2科目以上の理科（生物，化学，物理）において優れた学力を有する人
4. 高等学校までに自らの目標に基づいて取り組んだ経験やクラブ活動あるいは生徒会活動，ボランティア活動等の経験を有し，様々な社会環境を受け入れることができる豊かな人間性を持った人
5. 専門分野の知識や技術に興味・関心を持って学び，実験や臨地実習においても真摯な態度で自らの課題を設定して問題解決し，新しい分野にも積極的に取り組んでいくフロンティア精神を持った人
6. 協調性に富み，チーム医療の一員としてお互いの仕事を尊重しつつ協同的に働き，専門分野における役割・機能の責務を果たし，指導的役割を担える資質を有する人
7. 科学的探求心と積極的学習意欲を備え，学部卒業後は専門職業人や教育者・研究者としての能力を高め，指導的立場に立って社会貢献しようという意欲のある人

II 入学者選抜の基本方針

医学部保健学科の入学試験では，高等学校までの教育課程を踏まえ，知識・技能（基礎学力）・思考力・判断力・表現力等を評価します。また，入学後のカリキュラムを考慮して，選抜にあたっては数学・理科科目を主とした論理的思考力や科学的探究心，英語科目による

募集人員・出願方法

本学では、特別選抜として学校長（出願要件を満たす教育施設）の推薦に基づき、入学定員の一部について、次のとおり入学者選抜を実施します。

1. 募集人員

学 部		学 科 ・ 課 程 ・ 専 攻			募 集 人 員		
教育学部	学校教育教員養成課程	初等・中等教育コース	小学校専攻		30人	(一般枠) 10人	
						(地域枠) 10人	
						(理数枠) 10人	
		実技系専攻	理科専攻		5人		
			音楽	10人	(2人程度)		
					(1人程度)		
					(3人程度)		
					(2人程度)		
					(2人程度)		
特別支援教育コース		6人					
養護教育コース		8人					
医 学 部	医学科		※ 23人	(一般枠) 5人			
				(地域枠) 8人			
				(みらい医療枠) 10人			
	保健学科	看護学専攻		18人			
		放射線技術科学専攻		9人			
検査技術科学専攻		9人					
薬 学 部	薬 学 科		15人				
	創 薬 ・ 生 命 薬 科 学 科		10人				
工 学 部	土 木 建 築 学 科		(ア)	26人		(イ) 各学科 若干名	
	機 械 数 理 工 学 科			16人			
	情 報 電 気 工 学 科			20人			
	材 料 ・ 応 用 化 学 科			27人			
	半 導 体 デ バ イ ス 工 学 課 程			5人			
情報融合学環			15人	(一般枠) 7人			
				(女子枠) 8人			
合 計			252人				

(備考)

- 教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コースの小学校専攻における学校推薦型選抜Ⅱは、一般枠、地域枠、理数枠を設定し、募集人員はそれぞれ10人とします。
教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コースの実技系専攻における募集人員（ ）内人数は、それぞれの合格者数の目安を示しています。
教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コースの実技系専攻（技術）の募集人員（2人程度）は、職業教育（工業・農業系）を主とする専門高校（学科）又は職業教育（工業・農業系）を主とする総合学科の出身者を対象としています。
- 医学部医学科（地域枠）の募集人員8人は、熊本県内高等学校の出身者または熊本県外高等学校の出身者（出願時において保護者が3年以上継続して熊本県内に在住している者）で熊本県医師修学資金の貸与を受ける者を対象としています。
- 医学部医学科（みらい医療枠）の募集人員10人は、熊本県内高等学校の出身者または熊本県外高等学校の出身者（出願時において保護者が3年以上継続して熊本県内に在住している者）で、卒業後の初期臨床研修終了後、熊本大学大学院医学教育部への進学又は熊本大学病院専門研修プログラムを履修する者を対象としています。
- 工学部（イ）の募集人員若干名は、工学部（ア）の募集人員の枠内とし、職業教育を主とする専門高校（学科）及び総合学科の出身者を対象としています。
- 情報融合学環の学校推薦型選抜Ⅱ募集人員には、データサイエンス、情報学に対する強い勉強意欲と将来を見据えた明確な勉強目的を持つことはもとより、従来の常識にとらわれずに新たなことに積極的にチャレンジし、多様な視点や優れた発想から、新たなイノベーション創出や社会の発展に貢献したいという意欲を持つ優秀な女子学生を対象とした学校推薦型選抜の募集人員（8人）を含む（学校推薦型選抜Ⅱ（女子枠）と称する。）。
- 学校推薦型選抜の入学手続完了者が募集人員に満たない場合（合格者が募集人員に満たなかった場合も含む）は、その不足する人員を前期日程の募集人員に加えます。（医学部医学科（地域枠）の募集人員（臨時定員）を除く。）

※ 医学部医学科の募集人員について

地域における深刻な医師不足に対処するため、医学部医学科入学定員の増員が必要であると国から示されたことに対し、医学部医学科では、熊本県内の地域医療に志のある学生の入学を推進し、地域等における医師不足を解消することを目的として、令和6年度入試の入学定員5人の増員申請を行い、文部科学省大学設置・学校法人審議会において認可されました。これにより令和6年度入試の入学定員（募集人員）は110人となり、一般選抜（前期日程）87人、学校推薦型選抜Ⅱ23人（一般枠5人、地域枠8人、みらい医療枠10人）の募集人員とし、入学者選抜を実施します。

なお、今回の入学定員の増員は、令和6年度入試のみ適用され、臨時定員増員に関する令和7年度（2023年度）入試以降の取扱いは、現時点では未定です。

本件については、内容が確定次第、本学ウェブサイトで情報を更新していきますので、随時確認するようにしてください。（<https://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi> 参照）

※ 工学部の教育プログラムについて

工学部では、4学科・1課程で学生を募集し、各学科・課程単位で選抜を行いますが（総合型選抜を除く。）、4学科への入学者は2年次進級の際にさらに学科毎に3つの教育プログラムに分かれて所属します。各教育プログラムの受け入れ可能な人数には制約があり、教育プログラムへの配属は希望と1年次の成績に基づいて決定されます。同一学科内であっても、配属される教育プログラムによって取得可能な資格等に違いがありますので注意してください。

（<https://www.eng.kumamoto-u.ac.jp/department/> 参照）

※ 情報融合学環のコース所属について

情報融合学環の入学者は、2年次進級の際に2つのコースに分かれて所属します。各コースへの配属は、希望と1年次の成績に基づいて決定されます。

2. 出願方法

国公立大学（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。以下同じ。）の学校推薦型選抜（大学入学共通テストを課す選抜、課さない選抜を含めて）へ出願できるのは、一つの大学・学部・学科に限られています。

したがって、本学の学校推薦型選抜に出願した者は、他の国公立大学が実施する学校推薦型選抜に出願することはできません。

※公立大学協会ウェブサイト（<http://www.kodaikyo.org/nyushi>）参照

3. 医 学 部 医 学 科 (地域枠)

※地域枠については、当該枠の趣旨及び令和6年度入学者から適用する「診療科推奨制度」について十分にご理解の上受験していただくために、出願に際して以下のいずれかを満たしているかをご確認の上、出願手続をお願いいたします。

- ① 熊本大学医学部医学科オープンキャンパスにおける地域枠説明会への出席
(令和5年8月4日開催)
- ② ①の説明会の録画配信の視聴
<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/admission/opencampus2023.html>

(1) 募集人員

医 学 科 8 人

(2) 推薦の要件

熊本県内の高等学校が推薦できる人数は、一つの学校から4人以内とします。

熊本県外の高等学校が推薦できる人数は、一つの学校から3人以内とし、出願時において保護者が3年以上継続して熊本県内に在住（住民登録）している者を対象とします。

なお、学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）及び（みらい医療枠）との併願はできません。

志望学科への入学の意志が強固、かつ将来、熊本県の地域医療を目指す者で、次の1)～4)までの全ての要件を満たすもの

- 1) 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を令和4年3月以降に卒業した者及び令和6年3月卒業見込みの者
- 2) 上記1)の教育施設における学習成績の状況が4.0以上であって、将来、熊本県の地域医療において中心的役割を担う人材であると判断でき、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者
- 3) 令和6年度大学入学共通テストの5教科7科目以上（「(3)選抜方法」参照）を受験した者
- 4) 合格した場合、熊本県医師修学資金の貸与を受け入学し、在学中は継続して貸与を受けることを確約できる者（注）

（注）卒業後の決められた一定期間、熊本県知事が指定する地域の病院等で勤務していただきます。

- 5) 合格した場合、卒業後、専門領域として選択する診療科について、以下のいずれかのものを推奨されていることを十分に理解の上、入学することができる者

【選択を推奨する診療科】

総合診療科、救急科、内科、外科、小児科、産婦人科、整形外科

※いずれも新専門医制度の基本領域における診療科を指す。

(3) 選抜方法

大学入学共通テスト、推薦書、調査書、志望理由書（地域医療に対する抱負や意見について800字程度）及び面接の成績により総合的に判定します。

大学入学共通テストで受験を要する教科・科目

学 科	教 科 ・ 科 目
医 学 科	国 : 国語……1
	地歴 : 世B, 日B, 地理B
	公民 : 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1
	数 : 数I・数A……1
	数II・数B, ※簿, ※情報から1 } 2
	理 : 物理, 化学, 生物から2
	外 : 英, 独, 仏, 中, 韓から1
	[5教科7科目]

- (注) 1. 「地歴」及び「公民」の教科について、2科目を受験している者の成績は、第1解答科目の成績を採用します。
2. 「地歴」及び「公民」の教科について、第1解答科目が医学科の指定した利用教科・科目でなく、第2解答科目が医学科の指定した利用教科・科目である場合は、当該利用教科・科目を「0点」として取扱います。
3. 大学入学共通テストで受験を要する教科・科目欄中※印の科目を選択解答できる者は、出願要件となる教育施設においてこれらの科目を履修した者に限ります。

(4) 評価基準・配点

1) 評価基準

【面接】

医学科の教育を受けるために必要な基礎学力、科学的・知的探究心、医学（地域医療を含む）に対する熱意と適性、柔軟な思考力、高等学校における活動状況を参考とします。

調査書、推薦書及び志望理由書を参考にしながら、複数の面接官による個人面接を実施します。

2) 配点

学科	区分	大学入学共通テスト					個別学力検査等		合計
	教科・科目等					計	面接	計	
	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語				
医 学 科	200	100	200	200	200	100	30	30	130
	合計点を 100 点に換算する								

※大学入学共通テストで課す「外国語『英語』」については、リーディング100点満点を200点満点に、リスニング100点満点を50点満点に換算し、その合計点を200点満点に圧縮したうえで、学科における配点のとおり換算します。

なお、リスニング免除者及び英語以外の「外国語」受験者については、リーディング100点満点を200点満点に換算し、学科における配点のとおり換算します。

(5) 合否判定基準

- 1) 令和6年度大学入学共通テストの 5教科7科目以上を受験し、かつ、原則として7科目合計点の78%以上を得た者を対象に、総得点の高い順に募集人員の範囲で合格者を決定します。
- 2) 面接について、複数の面接官が最低の評価点を与えた場合、又は面接点の合計点が一定基準を超えなかった場合は、合格としません。

(6) 試験日時等

- 1) 日 時 令和6年2月3日(土) 集合時間 12時30分
- 2) 試験場 熊本大学医学部医学科 熊本市中央区本荘1丁目1番1号

※ インターネット出願登録システムから出力した本学の受験票（学校推薦型選抜Ⅱ用）及び「大学入学共通テスト受験票」を持参してください。

[本件に関する問合せ先]

熊本大学医薬保健学系事務課医学事務チーム教務担当 電話：096－373－6832

「熊本県医師修学資金」について

熊本大学医学部医学科学学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）による合格者は、熊本県医師修学資金の貸与を受けていただきます。

（１）制度の概要

熊本県医師修学資金貸与制度は、医師が不足している地域の医師確保を目的とした制度です。

貸与を受けた方は、大学卒業後、貸与を受けた期間の２分の３に相当する期間（６年間貸与を受けた場合は９年間）、熊本県知事が指定する医師不足地域の病院等（知事指定病院等（※１））で勤務していただきます。（この期間には、熊本県内の基幹型臨床研修病院で行う２年間の臨床研修、熊本県内の医療機関で行う１年間の後期研修の期間を含みます。）必要な勤務期間を満了すると、貸与を受けた修学資金の返還が全額免除されます。（※２）

※１－１ 知事指定病院等

1. 臨床研修
県内の基幹型臨床研修病院
2. 臨床研修修了後
知事が指定する右の第１～３
グループの医療機関
(令和６年３月時点)

※１－２

第１～３グループの医療機関
においては、次のとおり勤務
していただきます。

第１グループ：２年間以内

第２グループ：２年間以上

第３グループ：残りの期間
(グループ間の順序は変更可)

※１－３

第３グループのうち、診療所で
勤務した期間は、第２グループ
で勤務した期間とみなします。

※１－４

対象医療機関は、各地域の医
師不足の状況等により変更に
なる場合があります。

【第１グループ】

圏域	医療機関名
有明	①有明医療センター ②くまもと県北病院
鹿本	③山鹿市民医療センター
菊池	④熊本再春医療センター
八代	⑤熊本労災病院 ⑥熊本総合病院
芦北	⑦水俣市立総合医療センター
球磨	⑧人吉医療センター
天草	⑨天草地域医療センター ⑩天草中央総合病院

【第２グループ】

圏域	医療機関名
阿蘇	⑪阿蘇医療センター ⑫小国公立病院
上益城	⑬そよう病院
球磨	⑭公立多良木病院
天草	⑮上天草総合病院 ⑯河浦病院 ⑰新和病院 ⑱栖本病院

【第３グループ（うち病院）】

圏域	医療機関名
熊本	⑲こころの医療センター
宇城	⑳熊本南病院 ㉑こども総合療育センター ㉒済生会みすみ病院
有明	㉓和水町立病院
菊池	㉔菊池郡市医師会立病院 ㉕菊池病院
八代	㉖八代市医師会立病院 ㉗八代北部地域医療センター
天草	㉘牛深市民病院 ㉙苓北医師会病院

【第３グループ（うち診療所）】

圏域	医療機関名
阿蘇	㉚産山村診療所
八代	㉛椎原診療所
天草	㉜湯島へき地診療所 ㉝御所浦診療所

※２ 知事指定病院等で医師業務に従事しなかった場合等、被貸与者となった後、熊本県医師修学資金貸与条例第８条第１項に規定する事項に該当した場合、貸与を受けた修学資金の額に利息を加えた額を一定期間内に一括して返還する必要が生じますのでご注意ください。

（２）貸与額

入学科相当額：282,000 円（入学年度のみ），授業料相当額：535,800 円（年額），
生活費相当額：75,000 円（月額）（６年間で約 900 万円の貸与となります。）

※ 志願時同意書の提出

熊本大学医学部医学科学学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）志願に当たり、以下の事項に同意の上、同意書を提出していただきます。

- １．熊本県医師修学資金貸与条例（以下「条例」という。）に基づき修学資金の貸与を受けることになったときは、卒業後、修学資金の貸与を受けた期間の２分の３に相当する期間、条例及び熊本県医師修学資金貸与条例施行規則に規定する知事が指定する病院等において、医師としての業務に従事すること。
- ２．上記１の勤務については、臨床研修（条例に規定する臨床研修をいう。）修了時に公表されている熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラムの中から選択したコースに沿って行うこと。
- ３．死亡又は傷病等で県がやむを得ないと認める事由により本人が医師業務に従事できなくなったとき以外は、県は上記１及び２の従事要件からの離脱に同意しないこと。

～熊本県医師修学資金の詳しい内容については、以下の問合せ先へお尋ねください～
〔問合せ先〕熊本県医療政策課（電話）096－333－2204

令和7年度（2025年度） 入学者選抜要項

目 次

1. 令和7年度入学者選抜の主な変更点	1
2. インターネット出願	3
3. アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）	
（1）各学部及び学環のアドミッション・ポリシー	4
（2）グローバルリーダーコース（文学部、法学部、理学部、工学部）の アドミッション・ポリシー	22
4. 入学者選抜概要	
（1）募 集 人 員	25
（2）出 願 資 格	27
（3）志 望 方 法	28
（4）推 薦 方 法	29
5. 入学者選抜実施日程	30
6. 入学者選抜方法等	31
7. 入学者選抜の実施教科・科目等	
（1）一般選抜	34
（2）総合型選抜	
1）グローバルリーダーコース入試	50
2）帰国生徒対象	54
（3）学校推薦型選抜	57
（4）社会人選抜	82
（5）私費外国人留学生選抜	83
8. 障がい等を有する入学志願者との事前相談	87
9. 入学志願者の入学検定料の免除	88
10. 学生募集要項等の公表時期及び入手方法	89
（参考資料）	
・ 令和6年度入学試験実施状況表	90

〔令和6年6月〕



※ 各選抜で特に重視するポイント（◎：特に大きい比重、○：大きい比重）

評価観点 入試区分	学力の3要素			求める人材像 (アドミッション・ポリシー)			
	知識・技能 (基礎学力)	思考力、 判断力、 表現力	主体性、 多様性、 協働性	論理的 思考力	科学的 探求心	応用力、 実践力	国際的情 報収集発 信能力、 外国語能 力
一般選抜（前期日程）	◎	◎		◎		○	○
一般選抜（後期日程）	◎	◎		◎		○	○
総合型選抜 （グローバルリーダー コース入試）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
私費外国人留学生選抜	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

※ 評価の観点の「求める人材像」の用語は、「Ⅰ 求める学生像」の理学部が求める学生像を抽象化したものです。

医学部

熊本大学医学部では、医学・保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）の発展に寄与し、広く社会に貢献できる医療者・研究者・教育者を育成するために、豊かな人間性、優れた協調性、高い倫理観、十分な基礎学力、科学的探究心、国際的視野を持つ人を求めています。

<医学科>

Ⅰ 求める学生像

熊本大学医学部医学科の使命

豊かな人間性と高い倫理観を持ち、医学およびその関連領域における社会的な使命を生涯にわたって追求・達成するとともに、変化する時代に対応できる能力を涵養し、地域にも世界にも貢献できる医師・医学者を育てる。

アドミッション・ポリシー

熊本大学医学部医学科の使命を達成するために、医学部医学科では、次のような人を求めています。

1. 病める人たちやその家族の気持ちを理解できる人
2. チーム医療の中心的役割を果たすための優れた協調性を持つ人
3. 地域医療に関心を持ち、地域住民の健康増進に貢献する意欲を持つ人
4. 科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医科学研究を展開する意欲に溢れる人
5. 社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保健医療や福祉に深い関心を持つ人
6. 日々進歩する医学や医療の最新知識を吸収できる基礎学力を持ち、生涯にわたって自己学習を継続できる人
7. 医学と医療以外の幅広い分野にも興味を持ち、継続的に教養を深める意欲に溢れる人

Ⅱ 入学者選抜の基本方針

医学部医学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を踏まえ、基礎的知識（基礎学力）、論理的思考力・判断力・表現力等を評価します。

（医学科への入学までに身につけてほしいこと）

受験生の多様性に合わせて、大学入学共通テスト及び個別学力検査では物理・化学・生物から

2科目選択となっていますが、入学後、医学科の様々な専門科目の基礎として、高等学校で学ぶ「生物・生物基礎」は重要な科目です。生物学の教科書はバランス良く構成されており、最新の生命現象についても平易に解説されていますので、幅広く学んでおくことが必要です。

また、教科の基礎学力だけでなく、論理的な文章を書くための国語力、グローバルでグローバルな医療の世界での共有言語である英語の素養を十分に身につけ、国際的な広い視野とコミュニケーション能力を備えていることも重要です。

Ⅲ 選抜方法

1. 一般選抜（前期日程）

「知識・技能」については、大学入学共通テストを利用して高等学校の教育課程の教科・科目に関する総合的な学力を、個別学力検査により、入学後の学習とより密接にかかわる教科・科目について学力をより深く判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については調査書及び面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。

2. 学校推薦型選抜Ⅱ

「知識・技能」については、大学入学共通テストを利用して高等学校の教育課程の教科・科目に関する総合的な学力を、個別学力検査により、入学後の学習とより密接にかかわる教科・科目について学力をより深く判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、推薦書、調査書、小論文及び面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。

3. 私費外国人留学生選抜

「知識・技能」については、日本留学試験を利用してこれまでの教育課程の教科・科目及び日本語に関する総合的な学力を、個別学力検査により、入学後の学習とより密接にかかわる教科・科目について学力をより深く判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。

※ 各選抜で特に重視するポイント（◎：特に大きい比重、○：大きい比重）

評価観点 入試区分	学力の3要素			求める人材像 (アドミッション・ポリシー)		
	知識・技能 (基礎学力)	思考力、 判断力、 表現力	主体性、 多様性、 協働性	チーム医療に 必要とされる コミュニケーション能力・ 協調性	地域医療 への関心・ 貢献	医科学研究への関 心・持続的 な学習意 欲
一般選抜（前期日程）	◎	◎	◎	◎	◎	◎
学校推薦型選抜Ⅱ	◎	◎	◎	◎	◎	◎
私費外国人留学生選抜	◎	◎	◎	○	○	○

~~＜保健学科＞~~

~~I 求める学生像~~

~~保健学（看護学、放射線技術科学、検査技術科学）の発展を担い、広く社会に貢献できる資質の高い医療者・研究者・教育者を育成するために、保健学科では保健学科の求める学生像を踏まえ、次のような人を求めています。~~

- ~~1. 看護職（看護師、保健師、助産師）並びに診療放射線技師、臨床検査技師という職業に魅力を感じ、専門分野において地域貢献するとともに、国際的な広い視野で物事を考え、活躍~~

4. 入学者選抜概要

(1) 募 集 人 員

学 部	学 科・課 程・専 攻		入学 定員	募 集 人 員 (人)								社会人 選 抜	私費外 国人留 学生選 抜	
				一般選抜		総合型選抜		学校推薦型選抜						
				前期 日程	後期 日程	グローバル リーダー コース入試	帰国生 徒対象	学校推薦 型選抜Ⅰ (大学入 学共通テ ストを課 さない)	学校推薦型選抜Ⅱ (大学入学共通テストを 課す)					
文 学 部	総合人間学科		55	55	38	8	10	—	9	—	—	各学科 若干名		
	歴史学科		35	35	24	7			4					
	文学科		50	50	35	5			5					
	コミュニケーション情報学科		30	30	20	—			5					
	計		170	170	117	20			10				23	
教育学部	学校 教育教員 養成課程	初等・中等 教育コース	220	110	80	—	—	—	—	10	—	若干名		
				国語専攻	7								7	
				社会専攻	7								7	
				数学専攻	10								10	
				理科専攻	10								5	
				英語専攻	6								6	
				実技系専攻	音楽								20	10
					美術									
					保健体育									
					技術									
					家庭									
				計	170								125	
				特別支援教育コース	20								14	
				養護教育コース	30								22	
				計	220								220	161
	法 学 部	法学科	200	200	145								25	10
理 学 部	理学科	190	190	140	40	10	—	—	—	—	若干名			
医 学 部	医学科	110※	110	87	—	—	—	—	23	—	各学科 若干名			
	保健 学科	看護学専攻	70	50					18	2				
		放射線技術科学専攻	144	37					28	9		—		
		検査技術科学専攻	37	28					9	—				
		計	254	254					193	59		2		
薬 学 部	薬学科	55	55	40	—	—	—	—	15	—	各学科 若干名			
	創薬・生命薬科学科	35	35	25					10					
	計	90	90	65					25					
工 学 部	土木建築学科	118	118	76	11	20	各学科等 若干名	—	26	—	各学科等 若干名			
	機械数理工学科	101	101	70	10				16					
	情報電気工学科	112	112	75	12				20					
	材料・応用化学科	122	122	78	12				27					
	半導体デバイス工学課程	20	20	15	—				5					
	計	473	473	314	45				20			94		
情報融合学環			60	60	45	—	—	—	—	15	—	若干名		
合 計			1,657	1,657	1,180	130	50	—	43	252	2			

(備考) 1. 教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コースの国語専攻、社会専攻、数学専攻、英語専攻は、一般選抜（前期日程）のみで募集する。

教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コースの実技系専攻における一般選抜（前期日程）は、音楽、美術、保健体育、技術、家庭を統合して募集する。なお、学校推薦型選抜Ⅱ募集人員における（ ）内人数は、それぞれの合格者数の目安を示す。

教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コースの小学校専攻における学校推薦型選抜Ⅱは、一般枠、地域枠、理数枠を設定し、募集人員はそれぞれ10人とする。

教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コースにおける実技系専攻（技術）の学校推薦型選抜Ⅱは、職業教育（工業・農業系）を主とする専門高校（学科）又は職業教育（工業・農業系）を主とする総合学科の出身者を対象とする学校推薦型選抜の募集人員を示す。

2. 医学部医学科の学校推薦型選抜Ⅱ募集人員には、地域枠（熊本県出身等の卒業見込み者及び卒業者を対象とした学校推薦型選抜）の募集人員（8人）、みらい医療枠（熊本県出身等の卒業見込み者を対象とした学校推薦型選抜）の募集人員（10人）を含む。

3. 工学部の学校推薦型選抜Ⅱ募集人員には、職業教育を主とする専門高校（学科）及び総合学科の出身者を対象とした学校推薦型選抜の募集人員（若干名）を含む。（学校推薦型選抜Ⅱ（イ）と称する。）

4. 総合型選抜（グローバルリーダーコース入試）、学校推薦型選抜及び社会人選抜の入学手続完了者が募集人員に満たない場合（合格者が募集人員に満たなかった場合も含む）は、その不足する人員を前期日程の募集人員にそれぞれ加える。（医学部医学科の学校推薦型選抜Ⅱ地域枠の募集人員（臨時定員）を除く。）

5. 総合型選抜（グローバルリーダーコース入試）については、学部単位での募集とする。

6. 情報融合学環の学校推薦型選抜Ⅱ募集人員には、データサイエンス、情報学に対する強い勉学意欲と将来を見据えた明確な勉学目的を持つことはもとより、従来の常識にとらわれずに新たなことに積極的にチャレンジし、多様な視点や優れた発想から、新たなイノベーション創出や社会の発展に貢献したいという意欲を持つ優秀な女子学生を対象とした学校推薦型選抜の募集人員（8人）を含む。（学校推薦型選抜Ⅱ（女子枠）と称する。）

※．医学部医学科の募集人員について

医学部医学科では、本来、入学定員（募集人員）が105人のところ、令和7年度（2025年度）入試における入学定員（募集人員）は110人（一般選抜（前期日程）：87人、学校推薦型選抜Ⅱ：23人（一般枠：5人、地域枠：8人、みらい医療枠：10人））となっています。これは、熊本県内の地域医療に志のある学生の入学を推進し、地域等における医師不足を解消することを目的として、令和6年度に引き続き、令和7年度においても入学定員5人の臨時定員を維持することを計画しているためです。

今後、文部科学省大学設置・学校法人審議会での審議を経て、入学定員5人の臨時定員の維持が認められた場合に、令和7年度入試における入学定員は110人となり、本表の募集人員にて入学者選抜を実施する予定です。

なお、本件については、内容が確定次第、本学ウェブサイトで情報を更新していきますので、随時確認するようにしてください。（<https://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/bosyujinin> 参照）

◎ 教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コースにおける実技系専攻の募集について

一般選抜（前期日程）における実技系専攻は、音楽、美術、保健体育、技術、家庭を1専攻として統合し選抜を実施します。実技系専攻の志願者は、出願時に上記から1つを選択して出願するものとし、実技系専攻内で相互志望は認めません。

また、学校推薦型選抜Ⅱでは、実技系専攻として募集人員を設定しますが、音楽、美術、保健体育、技術、家庭で個別に選抜を実施し、募集人員欄に示す（ ）内の人数を合格者数の目安とします。

◎ 法学部法学科のコース所属について

法学部法学科の一般選抜合格による入学者は、1年次において「法学・公共政策学コース」に所属します。入学後のコース変更は可能ですが、その際は入学後の成績に基づく選考が行われることがあります。学校推薦型選抜合格による入学者のコース所属は、58～59ページを参照ください。

（<https://www.law.kumamoto-u.ac.jp/curriculum/> 参照）

◎ 工学部の教育プログラムについて

工学部は4学科・1課程で学生を募集し、各学科・課程単位で選抜を行います（総合型選抜（グローバルリーダーコース入試）を除く）、4学科への入学者は2年次進級の際にさらに学科毎に3つの教育プログラムに分かれて所属します。各教育プログラムの受け入れ可能な人数には制約があり、教育プログラムへの配属は希望と1年次の成績に基づいて決定されます。同一学科内であっても、配属される教育プログラムによって取得可能な資格等に違いがありますので注意してください。

（<https://www.eng.kumamoto-u.ac.jp/department/> 参照）

◎ 情報融合学環のコース所属について

情報融合学環の入学者は2年次進級の際に2つのコースに分かれて所属します。各コースへの配属は希望と1年次の成績に基づいて決定されます。

〔学校推薦型選抜Ⅰ・Ⅱ〕

選抜方法等 学部・学科等名				学 校 推 薦 型 選 抜											備 考
				入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、個別学力検査を免除し調査書を主な資料として判定する											
				学 部 入 学 共 通 テ ス ト を 課 す	個 別 学 力 検 査 を 免 除 す る	2 段 階 選 抜 書 類 審 査 を 行 う	第 一 段 階 選 抜 に よ る 合 格 者 数 （ 募 集 人 員 に 対 す る 倍 率 ）	実 技 検 査 を 課 す	実 技 検 査 を 行 う	小 論 文 を 課 す	外 国 語 に お け る リ ス ニ ン グ	そ の 他	募集人員		
文学部	総合人間学科			Ⅰ	×	○	×	×	×	○	○	×	×	9人	
	歴史学科				4人										
	文学科				5人										
	コミュニケーション情報学科				5人										
教育学部	学校教育教員養成課程 初等・中等教育コース	小学校専攻	Ⅱ	一般枠					×					10人	
		地域枠										10人			
		理数枠	Ⅱ											10人	
				○	×	×	×	○	○	×	×	×	5人		
		理科専攻												(2人程度)	
		音楽												(1人程度)	
		美術												(3人程度)	
		保健体育												(2人程度)	
		技術												(2人程度)	
		家庭					×							6人	
		特別支援教育コース												8人	
		養護教育コース													
法学部			Ⅰ	(ア)	×	○	○	約2倍	×	○	○	×	×	10人	
(イ)												10人			
医学部	医学科	一般枠	Ⅱ								○			5人	
		地域枠		○	×	×	×	×	○	×	×	×	8人		
		みらい医療枠								○				10人	
	保健学科	看護学専攻	Ⅱ											18人	
		放射線技術科学専攻	Ⅱ	○	×	×	×	×	○	×	×	×	9人		
検査技術科学専攻		Ⅱ											9人		
薬学部	薬学科		Ⅱ	○	×	×	×	×	○	×	×	×	15人		
	創薬・生命薬科学科		Ⅱ											10人	
工学部	土木建築学科	Ⅱ	(ア)	○	×	×	×	×	○	×	×	×	26人		
			(イ)										(若干名)		
	機械数理工学科	Ⅱ	(ア)										16人		
			(イ)										(若干名)		
	情報電気工学科	Ⅱ	(ア)										20人		
			(イ)										(若干名)		
	材料・応用化学科	Ⅱ	(ア)										27人		
			(イ)										(若干名)		
半導体デバイス工学課程	Ⅱ	(ア)	5人												
		(イ)	(若干名)												
情報融合学環			Ⅱ	一般枠	○	×	×	×	×	○	×	×	×	7人	
				女子枠	8人										

注) 1.「Ⅰ」は、「学校推薦型選抜Ⅰ」(大学入学共通テストを課さない推薦)を示し、「Ⅱ」は、「学校推薦型選抜Ⅱ」(大学入学共通テストを課す推薦)を示す。

2.教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コース実技系専攻における()内の人数は、合格者数の目安を示す。

3.教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コース実技系専攻(技術)は、職業教育(工業・農業系)を主とする専門高校(学科)又は職業教育(工業・農業系)を主とする総合学科の出身者を対象とする学校推薦型選抜の選抜方法等及び募集人員を示す。

4.工学部各学科等の(イ)は、職業教育を主とする専門高校(学科)及び総合学科の出身者を対象とする学校推薦型選抜の選抜方法等及び募集人員を示す。

学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）（大学入学共通テストを課す）

実施学部 ・学科等名	医学部 医学科						
募 集 人 員	8 人						
出 願 要 件	熊本県内の高等学校が推薦できる人数は、一つの学校から4人以内とします。 熊本県外の高等学校が推薦できる人数は、一つの学校から3人以内とし、出願時において保護者が3年以上継続して熊本県内に在住（住民登録）している者を対象とします。 なお、学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）及び（みらい医療枠）との併願はできません。 志望学科への入学の意志が強固、かつ将来、熊本県の地域医療を目指す者で、次の1)～4)までの全ての要件を満たすもの 1) 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を令和5年3月以降に卒業した者及び令和7年3月卒業見込みの者 2) 上記1)の教育施設における全体の学習成績の状況が4.0以上であって、将来、熊本県の地域医療において中心的役割を担う人材であると判断でき、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者 3) 令和7年度大学入学共通テストの6教科8科目以上（選抜方法等欄参照）を受験した者 4) 合格した場合、熊本県医師修学資金の貸与を受け入学し、在学中は継続して貸与を受けることを確約できる者（注） （注）卒業後の決められた一定期間、熊本県知事が指定する地域の病院等で勤務していただきます。						
選 抜 方 法 等	大学入学共通テスト、推薦書、調査書、志望理由書（地域医療に対する抱負や意見について800字程度）及び面接の成績により総合的に判定します。 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">大学入学共通テストで受験を要する教科・科目</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新教育課程による出題科目</td><td>旧教育課程履修者等に対する経過措置 *旧教育課程履修者は、以下の経過措置科目を選択することができる。</td></tr> <tr> <td> 国：国語……1 地歴：地総・地探、歴総・日探、歴総・世探 公民：公・倫、公・政経 数：数Ⅰ・数A……1 数Ⅱ・数B・数C……1 理：物、化、生から2 外：英、独、仏、中、韓から1 情：情報Ⅰ……1 [6教科8科目] </td><td> 地歴：旧世B、旧日B、旧地理B 公民：旧現社、旧倫、旧政経、旧倫・政経 数：旧数Ⅰ・数A……1 旧数Ⅱ・数B、旧簿、旧情報基礎から1 情：旧情報……1 *「旧簿」及び「旧情報基礎」を選択解答できる者は、高等学校又は中等教育学校（後期課程）等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の学科修了（見込み）者に限る。 </td></tr> </tbody> </table>	大学入学共通テストで受験を要する教科・科目		新教育課程による出題科目	旧教育課程履修者等に対する経過措置 *旧教育課程履修者は、以下の経過措置科目を選択することができる。	国：国語……1 地歴：地総・地探、歴総・日探、歴総・世探 公民：公・倫、公・政経 数：数Ⅰ・数A……1 数Ⅱ・数B・数C……1 理：物、化、生から2 外：英、独、仏、中、韓から1 情：情報Ⅰ……1 [6教科8科目]	地歴：旧世B、旧日B、旧地理B 公民：旧現社、旧倫、旧政経、旧倫・政経 数：旧数Ⅰ・数A……1 旧数Ⅱ・数B、旧簿、旧情報基礎から1 情：旧情報……1 *「旧簿」及び「旧情報基礎」を選択解答できる者は、高等学校又は中等教育学校（後期課程）等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の学科修了（見込み）者に限る。
大学入学共通テストで受験を要する教科・科目							
新教育課程による出題科目	旧教育課程履修者等に対する経過措置 *旧教育課程履修者は、以下の経過措置科目を選択することができる。						
国：国語……1 地歴：地総・地探、歴総・日探、歴総・世探 公民：公・倫、公・政経 数：数Ⅰ・数A……1 数Ⅱ・数B・数C……1 理：物、化、生から2 外：英、独、仏、中、韓から1 情：情報Ⅰ……1 [6教科8科目]	地歴：旧世B、旧日B、旧地理B 公民：旧現社、旧倫、旧政経、旧倫・政経 数：旧数Ⅰ・数A……1 旧数Ⅱ・数B、旧簿、旧情報基礎から1 情：旧情報……1 *「旧簿」及び「旧情報基礎」を選択解答できる者は、高等学校又は中等教育学校（後期課程）等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の学科修了（見込み）者に限る。						
出 願 期 間	令和7年1月20日（月）～令和7年1月24日（金）						

選 抜 期 日	令和7年2月8日（土）
合 格 発 表 日	令和7年2月12日（水）
そ の 他	(1) 卒業後、専門領域として選択する診療科の推奨について 地域枠入試で入学した方は、卒業後、2年間の臨床研修修了年度に公表されている「熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム」の中から選択したコースに沿って勤務していただきます。 その際、地域の医療提供体制の確保に資する以下の診療科※のコースを選択することを推奨します。 ・「総合診療科」、「救急科」、「内科」、「外科」、「小児科」、「産婦人科」、「整形外科」 ※ いずれも新専門医制度の基本領域における診療科を指します。 (2) 詳細について 地域枠の趣旨及び(1)の診療科の推奨等について十分にご理解のうえ、受験していただくため、オープンキャンパスにおいて説明会を実施します。 オープンキャンパスに参加できなかった方には、別途説明会の動画を視聴できる機会を設定します。 なお、試験は、同説明会への参加又は動画の視聴を前提に実施します。受験を考えている方は、試験において不利益にならないように説明会に参加又は動画を視聴するようにしてください。 その他詳細については、熊本大学医学部医学科ウェブサイト(入試のご案内)で令和6年7月頃にお知らせします。 URL : http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/ 

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
MME1-032-62-0	2024通年	医学部(m0003)	1	1	他
科目名(講義題目)			担当教員		
地域医療福祉体験実習(地域医療・福祉体験実習コース)			吉田 素文, 深水 大天, 若山 友彦, 鈴木 実, 松井 邦彦, 笠岡 俊志, 入江 弘基, 永芳 友, 阿南 浩太郎, 王 百慧		
学修成果とその割合					
A) 豊かな人間性 ……20% B) 基本的診療能力 ……10% C) 自己研鑽とプロフェッショナルリズム ……20% D) チーム医療と信頼される医療の実績 ……25% G) 地域医療 ……25%					
授業の形態	実習				
授業の方法	グループ学習、学外施設での実習、発表会				
授業の目的	医療という人の命に係わる職業に携わるものとしての職業的使命感、特に患者の心を理解する豊かな人間性を育てることは極めて重要である。入学当初の一年次学生に医療・保健・福祉の現場で臨場体験を行うことによって、医学を学ぶためのモチベーションを獲得し、患者や住民の側から医療・福祉をみる体験を積み、患者と接する態度を学び、医師、スタッフ、患者のチームワークのあり方を考えることを目的とする。さらに令和4年度改訂版医学教育モデルコアカリキュラムの「PR: プロフェッショナルリズム (PR-01,02)」 「GE: 総合的に患者・生活者をみる姿勢 (GE-01-02,03, GE-02,GE-04)」 「LL: 生涯にわたって共に学ぶ姿勢(LL-01-02)」 「RE: 科学的探究(RE-01)」 「PS: 専門知識に基づいた問題解決能力(PS-02,PS-03)」 「CS: 患者ケアのための診療技能(CS-01, CS-05)」 「CM: コミュニケーション能力(CM-01,CM-03)」 「IP: 多職種連携能力(IP-01,02)」 「SO: 社会における医療の役割の理解(SO-06)」にある学修目標の習得を得ることを目的とする。				
学修目標	【A水準】 この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、十分に達成しているレベルをA水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表（http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/）を参照する。 【C水準】 この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、最低限達成しているレベルをC水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表（http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/）を参照する。 学修成果についての項目は以下の通りである（A水準、C水準共通）。 レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階: A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3)、C. 自己研鑽とプロフェッショナルリズム (項目5, 6)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2) レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目6, 7)、C. 自己研鑽とプロフェッショナルリズム (項目1, 2, 3, 4, 7)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目3, 4, 5, 6)、F. 国際的視野 (項目1)、G. 地域医療 (項目1, 2, 3, 4) レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目1, 2, 3, 4, 5, 8, 9, 10) さらに、令和4年度改訂版医学教育モデルコアカリキュラム（https://www.mext.go.jp/content/20240220_mxt_igaku-000028108_01.pdf）の「PR: プロフェッショナルリズム (PR-01,02)」 「GE: 総合的に患者・生活者をみる姿勢 (GE-01-02,03, GE-02,GE-04)」 「LL: 生涯にわたって共に学ぶ姿勢(LL-01-02)」 「RE: 科学的探究(RE-01)」 「PS: 専門知識に基づいた問題解決能力(PS-02,PS-03)」 「CS: 患者ケアのための診療技能(CS-01, CS-05)」 「CM: コミュニケーション能力(CM-01,CM-03)」 「IP: 多職種連携能力(IP-01,02)」 「SO: 社会における医療の役割の理解(SO-06)」にある学修目標の習得の足掛かりを得ることが求められる。				
授業の概要	日時：令和6年9月24日～9月26日（発表会は9月30日）。場所：各実習施設（心身障がい児(者)施設、慢性疾患療養施設、老人保健施設、特別養護老人ホーム、療養型病院、等）、熊本大学医学部医学科。内容：オリエンテーション・グループワークを行い、実習する施設にて学ぶべきことを確認する。施設での実習では、グループに分かれて各施設に赴き、医療・介護・福祉の現場で見学・体験実習を行う。具体的には、施設の全体像（施設、スタッフ、患者の概要、主な設備、活動の内容）の把握・記録、看護（介護）体験、リハビリ見学、ケースワーカーとの面接、ケースカンファレンス参加等。特定の患者についてのケースワーク（面接調査：現在の状況、既往歴、生活歴等）も可。施設での実習では、スタッフの指導・評価を受ける。グループで振り返りとまとめを行い、発表会にて口頭での発表を行う。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1	08/01	実習オリエンテーション	実習の概要説明や、地域医療・福祉に関連する講義を行う。		
2	09/20	実習導入、事前学習	実習前の最終確認や、地域医療・福祉に関連する講義を行う。		
3	09/24	全日、施設での実習	実習先にてあらかじめ設定されたスケジュールで実習を行う。		
4	09/25	全日、施設での実習	実習先にてあらかじめ設定されたスケジュールで実習を行う。		
5	09/26	全日、施設での実習	実習先にてあらかじめ設定されたスケジュールで実習を行う。		
6	09/30	全日、実習発表会	実習班ごとに、実習の成果を発表する。		
授業外学修時間の目安	本科目は、45時間の学修が必要な内容で構成されている。時間割上の授業時間は40時間相当となるため、5時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）が、実習の理解を深めるために必要となる。				
テキスト	特にありません。				
参考文献	特にありません。				
履修条件	本授業に関連する基礎的な知識・技能・態度を有すること 実習前に4種抗体（麻疹、風疹、ムンプス、水痘）の抗体価を確認し、不十分であれば対応しておくことが望ましい。 少なくとも麻疹の抗体価については対応しておくこと。				
評価方法・基準	本実習の評価はオリエンテーション・発表会も含めた実習中の態度についてとなる。実習にやむを得ない理由（病気・怪我・忌引など）なく欠席、遅刻、早退したものは評価対象としない。 総括的评价是実習先指導者による評価(70%)、およびグループでの口頭発表に対する教員と学生による評価(30%)にて行う。前記合計が60%以上で合格とする。 また、ログブックにより自己評価・学生間の相互評価とスタッフからの形成的評価を行う。				
使用言語	「日本語」による授業				
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト(教科書は特になし。9月20日にユマニチュードに関する講義があるので予習しておくこと。)				

実務経験を 活かした授業	該当 (地域の医療機関・福祉施設で診療や教育等を担当したことのある教員が、本実習について担当する。)
-----------------	--

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
MME1-010-62-0	2023通年	医学部(20024)	1	1.5	他
科目名(講義題目)			担当教員		
早期臨床体験実習Ⅰ(H27～R4入用)(早期臨床体験実習Ⅰ)			古川 昇, 王 百慧		
学修成果とその割合					
A) 豊かな人間性 ……20% B) 基本的診療能力 ……10% C) 自己研鑽とプロフェッショナリズム ……20% D) チーム医療と信頼される医療の実績 ……25% G) 地域医療 ……25%					
授業の形態		実習			
授業の方法		グループ学習、学外施設での実習、発表会			
授業の目的		医療という人の命に係わる職業に携わるものとしての職業的使命感、特に患者の心を理解する豊かな人間性を育てることは極めて重要である。入学当初の一年次学生に医療・保健・福祉の現場で臨床体験を行うことによって、医学を学ぶためのモチベーションを獲得し、患者や住民の側から医療・福祉をみる体験を積み、患者と接する態度を学び、医師、スタッフ、患者のチームワークのあり方を考えることを目的とする。さらに平成28年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムの「A-1-2)患者中心の視点」「A-1-3)医師としての責務と裁量権」「A-4コミュニケーション能力」「A-5チーム医療の実践」「A-6医療の質と安全の管理」「A-7-1)地域医療への貢献」「B-1-6)社会・環境と健康」「B-1-7)地域医療・地域保健」「B-1-8)保健・医療・福祉・介護の制度」「F-2-14)リハビリテーション」「F-2-15)在宅医療と介護」にある学修目標の習得の足掛かりを得ることを目的とする。			
学修目標		【A水準】 早期臨床体験実習Ⅰで該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、十分に達成しているレベルをA水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表（http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/）を参照する。 具体的には、学修成果に関して以下の項目について十分に達成しているレベルをA水準とする。 レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階: A. 豊かな人間性(項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力(項目10)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム(項目6, 7, 8)、D. チーム医療と信頼される医療の実践(項目1, 2, 3) レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: B. 基本的診療能力(項目5, 6)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム(項目1, 2, 3, 4, 5)、D. チーム医療と信頼される医療の実践(項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野(項目2, 3)、G. 地域医療と社会貢献(項目1, 2, 3, 4, 6) レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: B. 基本的診療能力(項目1, 2, 3, 4, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14) A. 豊かな人間性の項目1, 3, 4について観察・知識獲得すること、項目2, 5について考察することが求められる。B. 基本的診療能力の項目10は、現場を体験し知識・態度を獲得することが望まれる。C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践については、医療現場での医療スタッフの職務を観察・一部経験し、その能力獲得のための知識と態度を学ぶことが重要である。またG. 地域医療と社会貢献の項目1, 2については実際の現場の体験を通じ知識の獲得と理解に努める。 コアカリキュラムでは、 「A-1-2)患者中心の視点」「A-1-3)医師としての責務と裁量権」「A-4コミュニケーション能力」「A-5チーム医療の実践」「A-6医療の質と安全の管理」「A-7-1)地域医療への貢献」「B-1-6)社会・環境と健康」「B-1-7)地域医療・地域保健」「B-1-8)保健・医療・福祉・介護の制度」「F-2-14)リハビリテーション」「F-2-15)在宅医療と介護」にある学修目標の獲得がある程度できているものをA水準とする。 【C水準】 早期臨床体験実習Ⅰで該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、最低限達成しているレベルをC水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表（http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/）を参照する。 具体的には、学修成果に関して以下の項目について最低限達成しているレベルをC水準とする。 レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階: A. 豊かな人間性(項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力(項目10)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム(項目6, 7, 8)、D. チーム医療と信頼される医療の実践(項目1, 2, 3) レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: B. 基本的診療能力(項目5, 6)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム(項目1, 2, 3, 4, 5)、D. チーム医療と信頼される医療の実践(項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野(項目2, 3)、G. 地域医療と社会貢献(項目1, 2, 3, 4, 6) レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: B. 基本的診療能力(項目1, 2, 3, 4, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14) A. 豊かな人間性の項目1, 3, 4について観察・知識獲得すること、項目2, 5について考察することが求められる。B. 基本的診療能力の項目10は、現場を体験し知識・態度を獲得することが望まれる。C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践については、医療現場での医療スタッフの職務を観察・一部経験し、その能力獲得のための知識と態度を学ぶことが重要である。またG. 地域医療と社会貢献の項目1, 2については実際の現場の体験を通じ知識の獲得と理解に努める。 また、コアカリキュラムでは、 「A-1-2)患者中心の視点」「A-1-3)医師としての責務と裁量権」「A-4コミュニケーション能力」「A-5チーム医療の実践」「A-6医療の質と安全の管理」「A-7-1)地域医療への貢献」「B-1-6)社会・環境と健康」「B-1-7)地域医療・地域保健」「B-1-8)保健・医療・福祉・介護の制度」「F-2-14)リハビリテーション」「F-2-15)在宅医療と介護」にある学修目標の獲得の足掛かりを得ることをC水準とする。			
授業の概要		日時：令和5年9月11日～9月15日（発表会は9月28日、10月5日）。場所：各実習施設（心身障がい児(者)施設、慢性疾患療養施設、老人保健施設、特別養護老人ホーム、療養型病院、等）、熊本大学医学部医学科。内容：オリエンテーション・グループワークを行い、実習する施設にて学ぶべきことを確認する。施設での実習では、グループに分かれて各施設に赴き、医療・介護・福祉の現場で見学・体験実習を行う。具体的には、施設の全体像（施設、スタッフ、患者の概要、主な設備、活動の内容）の把握・記録、看護（介護）体験、リハビリ見学、ケースワーカーとの面接、ケースカンファレンス参加等。特定の患者についてのケースワーク（面接調査：現在の状況、既往歴、生活歴等）も可。施設での実習では、スタッフの指導・評価を受ける。グループで振り返りとまとめを行い、発表会にて口頭での発表を行う。			
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		「医学情報処理」での予習GW	「医学情報処理」にて、実習施設についての予習などを行う。		
2	09/11	月曜日、全日、施設でのオリエンテーション、実習	施設への移動と導入オリエンテーション、実習		
3	09/12	火曜日、全日、施設での実習	実習先にてあらかじめ設定されたスケジュールで実習を行う。		
4	09/13	水曜日、全日、施設での実習	実習先にてあらかじめ設定されたスケジュールで実習を行う。		
5	09/14	木曜日、全日、施設での実習	実習先にてあらかじめ設定されたスケジュールで実習を行う。		
6	09/15	金曜日、全日、施設での実習	実習先にてあらかじめ設定されたスケジュールで実習を行う。		

7	09/28	木曜日、3,4限、ECE1発表会1	グループごとに実習についてスライドソフトにてプレゼンテーションを行う。
8	10/05	木曜日、3,4限、ECE1発表会2	グループごとに実習についてスライドソフトにてプレゼンテーションを行う。
授業外学修時間の目安		本科目は、67.5時間の学修が必要な内容で構成されている。実習は48時間分となるため、19.5時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）が、実習の理解を深めるために必要となる。	
テキスト		特になし	
参考文献		特になし	
履修条件		本授業に関連する基礎的な知識・技能・態度を有すること 実習前に4種抗体（麻疹、風疹、ムンプス、水痘）の抗体価を確認し、不十分であれば対応しておくことが望ましい。 。少なくとも麻疹の抗体価については対応しておくこと。	
評価方法・基準		本実習の評価はオリエンテーション・発表会も含めた実習中の態度についてとなる。実習にやむを得ない理由（病気・怪我・忌引など）なく欠席、遅刻、早退したものは評価対象としない。 総括的評価は実習先指導者による評価(70%)、およびグループでの口頭発表に対する教員と学生による評価(30%)にて行う。前記合計が60%以上で合格とする。 また、ログブックにより自己評価・学生間の相互評価とスタッフからの形成的評価を行う。	
使用言語		「日本語」による授業	
教科書・資料の言語		「日本語」のテキスト	
実務経験を 活かした授業		該当（実習施設にて医療活動を行っている指導者より直接指導を受ける。）	

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
MME1-020-62-0	2024通年	医学部(20028)	2	1	他
科目名(講義題目)			担当教員		
熊本大学病院医療体験実習コース(早期臨床体験実習Ⅱ)			吉田 素文, 深水 大天, 若山 友彦, 鈴木 実, 松井 邦彦, 笠岡 俊志, 入江 弘基, 阿南 浩太郎, 永芳 友, 王 百慧		
学修成果とその割合					
A) 豊かな人間性 ……15% B) 基本的診療能力 ……10% C) 自己研鑽とプロフェッショナリズム ……20% D) チーム医療と信頼される医療の実績 ……30% E) 医学科学研究 ……5% F) 国際的視野 ……5% G) 地域医療 ……15%					
授業の形態		実習			
授業の方法		大学病院における実習			
授業の目的		医学科学生にとって、医療という人の命に係わる職業に携わるものとしての職業的使命感、特に患者の心を理解する豊かな人間性を育むことは極めて重要である。早期臨床体験実習Ⅱでは、熊本大学医学部病院において臨床体験を行うことにより、医学を学ぶためのモチベーションと患者と接する態度の向上の更なる獲得はもとより、先進医療の現場における診療体制の実際を見学・体験し、医師・スタッフ・患者とのチーム医療のあり方の理解をより深めることを目的とする。さらに平成28年度改訂版医学教育モデルコアカリキュラムの「A-1-2)患者中心の視点」「A-1-3)医師としての責務と裁量権」「A-4コミュニケーション能力」「A-5チーム医療の実践」「A-6医療の質と安全の管理」「A-7-1)地域医療への貢献」「B-1-6)社会・環境と健康」「B-1-8)保健・医療・福祉・介護の制度」「F-2 基本的診療知識」にある学修目標の習得の足掛りを得ることを目的とする。			
学修目標		【A水準】 この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、十分に達成しているレベルをC水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表 (http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/ohe/) を参照する。 【C水準】 この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、最低限達成しているレベルをC水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表 (http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/ohe/) を参照する。 学修成果についての項目は以下の通りである (A水準、C水準共通)。 レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階: A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目5, 6)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2) レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目6, 7)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目1, 2, 3, 4, 7)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目3, 4, 5, 6)、F. 国際的視野 (項目1)、G. 地域医療 (項目1, 2, 3, 4) レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目1, 2, 3, 4, 5, 8, 9, 10) 医学教育モデルコアカリキュラムについては、 「A-1-2)患者中心の視点」「A-1-3)医師としての責務と裁量権」「A-4コミュニケーション能力」「A-5チーム医療の実践」「A-6医療の質と安全の管理」「A-7-1)地域医療への貢献」「B-1-6)社会・環境と健康」「B-1-7)地域医療・地域保健」「B-1-8)保健・医療・福祉・介護の制度」「F-2-14)リハビリテーション」「F-2-15)在宅医療と介護」にある学修目標の習得の足掛りを得ることが求められる。			
授業の概要		日時：令和6年3月3日～3月7日。場所：熊本大学病院各診療科・各部署。内容：学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。配属する診療科・部署は、学生の希望と診療科の許容人数に従い振り分ける。事前にオリエンテーションを行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。一週間の実習終了後、個人毎にレポートを提出する。			
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1	12/18	4限目、オリエンテーション1回目	熊本大学病院医療体験実習全般の説明		
2	01/15	4限、オリエンテーション2回目	医療情報取り扱い説明、看護部講義、受け入れ部署からの説明伝達等		
3	02/28	3,4限目、実習導入	熊本大学病院医療体験実習の導入ワーク、実習の最終確認等		
4	03/03	全日、熊本大学病院医療体験実習、1日目	学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。		
5	03/04	全日、熊本大学病院医療体験実習、2日目	学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。		
6	03/05	全日、熊本大学病院医療体験実習、3日目	学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。		
7	03/06	全日、熊本大学病院医療体験実習、4日目	学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。		
8	03/07	午前、熊本大学病院医療体験実習、5日目	学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。		
9	03/07	午後、熊本大学病院医療体験実習振り返り	実習の振り返りやアンケートへの記入を行う。		
授業外学修時間の目安		本科目は、45時間の学修が必要な内容で構成されている。実習は44時間分となるため、1時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）が、実習の理解を深めるために必要となる。			
テキスト		特になし			
参考文献		各診療科・各部署より、必要に応じて適宜指示あり。			
履修条件		2年次医学科学生 実習前に4種抗体（麻疹、風疹、ムンプス、水痘）の抗体価を確認し、不十分であれば対応しておくこと。			
評価方法・基準		実習の評価は、オリエンテーション・振り返りも含めた実習中の態度による。実習にやむを得ない理由（傷病・事故・忌引など）なく欠席、遅刻、早退したものは評価対象としない。 総括的評価は実習先指導者の評価(60%)、および学生からのレポートへの評価(40%)にて行う。レポートは内容の妥			

評価方法・基準	当性、著しい倫理的逸脱の有無、文章量などを観点として評価する。前記合計が60%以上で合格とする。 また、ログブックにより自己評価・学生間の相互評価とスタッフからの形成的評価を行う。
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト(特になし)
実務経験を 活かした授業	該当(実習施設にて医療活動を行っている指導者より直接指導を受ける。)

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
MME1-030-62-0	2024通年	医学部(20026)	3	1	他
科目名(講義題目)			担当教員		
早期臨床体験実習Ⅲ（H27～R4入用）(早期臨床体験実習Ⅲ)			吉田 素文, 深水 大天, 若山 友彦, 鈴木 実, 松井 邦彦, 高柳 宏志, 笠岡 俊志, 入江 弘基, 阿南 浩太郎, 永芳 友, 王 百慧		
学修成果とその割合					
A) 豊かな人間性 ……30% B) 基本的診療能力 ……10% C) 自己研鑽とプロフェッショナリズム ……10% D) チーム医療と信頼される医療の実績 ……10% G) 地域医療 ……40%					
授業の形態	実習				
授業の方法	学外実習施設における実習				
授業の目的	この早期臨床体験実習3 (Early Clinical Exposure 3, ECE3)は医学部医学科3年次に課す必修科目の一つである。医学科学生にとって、医療という人の命に係わる職業に携わるものとしての職業的使命感、特に患者の心を理解する豊かな人間性を育むことは極めて重要である。1年次の早期臨床体験実習1では医療・保健・福祉の現場についての学習、2年次の早期臨床体験実習2では熊本大学病院で先進医療の現場における診療体制、チーム医療のあり方について学習した。早期臨床体験実習3では、地域社会（市中の医療機関、へき地・離島、等）で求められる医療・保健・福祉・介護等の活動を経験し、そこで求められる臨床能力を理解し、各々の実態や連携（多職種連携やチーム医療）とコミュニケーションの必要性を学ぶことを目的とする。				
学修目標	【A水準】 この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、十分に達成しているレベルをA水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表（http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/）を参照する。 【C水準】 この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、最低限達成しているレベルをC水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表（http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/）を参照する。 学修成果についての項目は以下の通りである（A水準、C水準共通）。 レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階: A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目5, 6)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2) レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目6, 7)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目1, 2, 3, 4, 7)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目3, 4, 5, 6)、F. 国際的視野 (項目1)、G. 地域医療 (項目1, 2, 3, 4) レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目1, 2, 3, 4, 5, 8, 9, 10) 医学教育モデルコアカリキュラムについては、 「A-1-2)患者中心の視点」「A-1-3)医師としての責務と裁量権」「A-4コミュニケーション能力」「A-5チーム医療の実践」「A-6医療の質と安全の管理」「A-7-1)地域医療への貢献」「B-1-6)社会・環境と健康」「B-1-7)地域医療・地域保健」「B-1-8)保健・医療・福祉・介護の制度」「F-2-14)リハビリテーション」「F-2-15)在宅医療と介護」にある学修目標の獲得が求められる。				
授業の概要	日時：2024年10月23日、11月29日、12月2日～12月6日。場所：大学、熊本県内の医療機関。内容：学生を各施設に配属し、各施設が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。配属する施設は、学生の希望と施設の許容人数に従い振り分ける。前年度までの成績(GPA)を考慮する場合がある。10月23日のオリエンテーション、11月29日の導入ワークは大学にて行う。12月2日から12月6日まで県内の医療機関において実習を行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し、実習先指導担当者と振り返りを行う。12月6日午後は大学に戻り、振り返りを行う。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1	10/23	3限目, オリエンテーション	10月23日, 実習の説明、実習先振り分け方法提示など		
2	11/29	3,4限目, 導入ワーク	講義室に集まり導入のための個人ワーク、グループワークを行う		
3	12/02	学外実習1日目	各実習施設にて実習を行う。		
4	12/03	学外実習2日目	各実習施設にて実習を行う。		
5	12/04	学外実習3日目	各実習施設にて実習を行う。		
6	12/05	学外実習4日目	各実習施設にて実習を行う。		
7	12/06	学外実習5日目	12月6日, 午前中まで各実習施設にて実習を行う。遠方での実習の場合は移動時間となる。		
8	12/06	振り返りワーク	午後に大学の講義室に集まり、実習期間中に経験した内容をもとに振り返りを行う。		
授業外学修時間の目安	本科目は、45時間の学修が必要な内容で構成されている。実習は44時間分となるため、1時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）が、実習の理解を深めるために必要となる。				
テキスト	特になし				
参考文献	各施設より、必要に応じて適宜指示あり。				
履修条件	3年次医学科学生				
評価方法・基準	実習の評価は、大学で実施する導入・振り返りワークへの参加態度、提出物、さらに実習先指導担当者による実習期間中の評価票を合わせて、総括的評価を行う。実習にやむを得ない理由（傷病・事故・忌引など）なく欠席、遅刻、早退したものは評価対象としない。				
使用言語	「日本語」による授業				
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト				
実務経験を活かした授業	該当 (地域の医療機関で診療・医学教育を担当したことのある教員が、本実習について担当する。)				

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
MME1-100-79-0	2024前期	医学部(20061)	4	1	水曜1限
科目名(講義題目)			担当教員		
医療と社会（H31以降入用）(医療と社会)			近本 亮, 佐野利恵, 濱野真二郎, 岡村直樹, 井芹道一, 勝村久司, 原啓章, 福島靖正, 吉田 素文, 深水大天, 阿南浩太郎, 王 百慧		
学修成果とその割合					
A) 豊かな人間性 ……20% C) 自己研鑽とプロフェッショナリズム ……20% D) チーム医療と信頼される医療の実績 ……15% E) 医科学研究 ……10% F) 国際的視野 ……20% G) 地域医療 ……15%					
授業の形態		講義			
授業の方法		対面授業を行う。複数の教官によるオムニバス形式。			
授業の目的		医療法制や医療行政、医療安全などを通して、社会的側面から医療や健康に関する問題を理解する。また、平成28年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムの「A-7-2) 国際医療への貢献」、「A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢」、「B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度」、「B-4 医療に関連のある社会科学領域」の学修目標、特に、以下の項目の習得を目的とする。 ① 医療社会学等の社会科学の基本的な視点・方法・理論を概説できる。 ② 病気・健康・医療・死をめぐる文化的な多様性を説明できる。 ③ 自分が所属する文化を相対化できる。 ④ 人々の暮らしの現場において病気・健康がどのようにとらえられているかを説明できる。 ⑤ 国際保健・医療協力の現場における文化的な摩擦について、文脈に応じた課題を設定して解決案を提案できる。 ⑥ 社会をシステムとして捉えることができる。			
学修目標		【A水準】 この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、十分に達成しているレベルをA水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表（ http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/ ）を参照する。 【C水準】 この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、最低限達成しているレベルをC水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表（ http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/ ）を参照する。 【A水準、C水準共通】 学修成果の項目は以下の通りである。 1. レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野 (項目3)、G. 地域医療と社会貢献 (項目3, 4) 2. レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: A. 豊かな人間性 (項目4, 5)、B. 基本的診断能力 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 14)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目1, 2, 3)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、E. 医科学研究 (項目1, 2, 3, 4, 5)、F. 国際的視野 (項目2, 4)、G. 地域医療と社会貢献 (項目1, 2, 5, 6) 医学教育モデル・コア・カリキュラムについては、以下の通りである。 ① 医療社会学等の社会科学の基本的な視点・方法・理論を概説できる。 ② 病気・健康・医療・死をめぐる文化的な多様性を説明できる。 ③ 自分が所属する文化を相対化できる。 ④ 人々の暮らしの現場において病気・健康がどのようにとらえられているかを説明できる。 ⑤ 国際保健・医療協力の現場における文化的な摩擦について、文脈に応じた課題を設定して解決案を提案できる。 ⑥ 社会をシステムとして捉えることができる。			
授業の概要		以下の内容について学修する。 1) 社会医学および医療倫理学を、科学的知見の進歩に基づき理解する。 2) 医師法など基本的な法律と医療裁判の現状について理解する。 3) 医療行政の現状について理解する。 4) 国際医療について理解する。 5) 医療安全について理解する。			
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1	05/08	水曜1限 医療の質の改善	近本亮先生（医療の質・安全管理部・教授） 医療におけるプロフェッショナリズムとコミュニケーションについて		
2	05/15	水曜1限 医療安全	佐野利恵先生（法医学講座・教授） リスクマネジメントの基本		
3	05/22	水曜1限 医事法制	佐野利恵先生（法医学講座・教授） 医療安全を中心に講義を行う。		
4	05/29	水曜1限 顧みられない熱帯病（NTDs）	濱野真二郎先生（長崎大学熱帯医学研究所 寄生虫学分野教授） 顧みられない熱帯病について講義を行う。		
5	06/05	水曜1限 災害医療、国際医療	岡村直樹先生（熊本赤十字病院 国際医療救援部長） 国際保健と災害医療		
6	06/12	水曜1限 世界の水銀汚染と水俣条約	井芹道一先生（元熊本日日新聞社論説委員） 水俣病の発生から半世紀以上が経過し、2013年10月、熊本市で国連の新環境条約「水銀に関する水俣条約」が採択された。いままぜ水銀が地球環境問題化しているのか。その意義と水俣条約の中身を、国際取材の現場から解説する。		
7	06/19	水曜17時（日程注意、17:00-18:30）	勝村久司先生（医療情報の公開・開示を求める市民の会世話人） 患者および家族の視点からの医療安全について、講義を行う。 （6月19日1限は休講となることに注意してください）		
8	06/26	水曜1限 医事法制	原啓章先生（観音坂法律事務所 弁護士） 法廷から見た医学と医療について、講義を行う。		

9	07/03	水曜1限 保健医療行政	福島靖正先生（元 厚生労働省 医務技監） 保健医療行政について、講義を行う。
授業外学修時間の目安	本科目は1単位科目であるため、全体で45時間分の学修が必要な内容で構成されている。授業では、2h×9コマ＝18時間の学修を行うため、残り27時間の学修については、予習復習、レポート作成を行うこと。		
テキスト	特になし		
参考文献	特になし		
履修条件	特になし		
評価方法・基準	筆記試験を実施しない。学修態度と講義レポートにより総合的に評価する。小レポートを提出しなかった場合、または、正当な理由なしに講義を欠席した場合、その日の評定は0点となる。 評価方法 1. 各講義の小レポート(70%) 2. 講義期間を通じての総合レポート(30%) 評価基準 レポートは内容の妥当性と著しい倫理的逸脱の有無、文章量等の観点から評価する。総括的評価として上記2項目合計が60%に満たないものは不可とする。 再試験は原則行わない。		
使用言語	「日本語」による授業		
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト		
実務経験を 活かした授業	該当（医療者、行政担当者など、様々な実務経験に基づく講義）		

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
MME2-360-81-0	2024前期	医学部(36014)	4	4	火曜1限, 火曜2限, 火曜3限, 火曜4限, 木曜1限, 木曜2限, 木曜3限, 木曜4限, 金曜1限, 金曜2限
科目名(講義題目)			担当教員		
公衆衛生学（H26以降入用）(公衆衛生学マインドの修得)			加藤 貴彦, 大森 久光, 盧 溪, 増田 翔太		
学修成果とその割合					
A) 豊かな人間性 ……20% B) 基本的診療能力 ……20% C) 自己研鑽とプロフェッショナルリズム ……5% D) チーム医療と信頼される医療の実績 ……15% E) 医科学研究 ……15% F) 国際的視野 ……20% G) 地域医療 ……5%					
授業の形態	講義・演習				
授業の方法	講義授業				
授業の目的	21世紀のキーワードに高齢社会、情報社会、国際化があり、ヘルスプロモーションの理念と技術を基盤とする健康増進と疾病予防の新しい国際潮流がある。本科目ではこれらの時代的要請に応え、健康情報医学（疫学、生物統計学）、環境保健、産業保健、地域保健、感染症、国際保健医学、医療科学（保健・医療・福祉システム）に関する系統的な講義とともに、医学の社会的適用、医学と社会との関わりに関する理念、観察力、実践の手法を修得する。				
学修目標	【A水準】 「熊本大学医学部医学科教育成果において、以下の項目についてそれぞれのレベル段階での能力を獲得することを到達目標とする（熊本大学医学部医学科教育成果および講義実習対応表参照）。 レベルC（基盤となる技能・態度の修得）：A. 豊かな人間性（項目3）、E. 医科学研究（項目1、2、3、4、5）、F. 国際的視野（項目4）、G. 地域医療と社会貢献（項目2、3、4、5） レベルD（基盤となる知識の修得）：A. 豊かな人間性（項目4）、B. 基本的診療能力（項目1、2、3、5、6、7、8、9、14）、F. 国際的視野（項目1）、G. 地域医療と社会貢献（項目6） 一般的学習目標GIO (General Instruction Objective) ①公衆衛生学マインドを身につける：公衆衛生学の特徴は、臨床家の「clinical mind」に対し「public health mind」であることである。すなわち臨床家が一人の患者をみて病気を診断し治療する「patient oriented」であるのに対し、公衆衛生では、患者個人を対象とするのみならず、患者を含めて人々の存在する社会集団そのものを視野にしている「population oriented」であることに大きな特徴がある。「population」とは、ある国全体、あるいは一定の地域の住民、産業職場で働く人々、学童など、特定の人間集団を対象にする。公衆衛生学では、患者の診断、治療行為にとどまらず、人々が日々充実して過ごすための身体的、精神的、社会的な健康基盤を確保することを目標にする。 ②健康の概念の理解している ③日本の医療・保健・福祉制度の理解している ④疫学的手法を理解し、研究計画の立案ができる ⑤健康教育理論の理解と具体的な実践方法を身につける ⑥国際的視野を身につける ⑦環境問題（保健）についての現状と課題について理解している ⑧産業保健の現状と課題について理解し、予防・対策の考察ができる ⑨感染症の疫学的指標を理解、予防・対策について立案できる。⑩母子・小児・成人・老人保健といった、人のライフステージに応じた健康維持・予防方策について理解し、説明できる。 【C水準】 水準については、医学教育モデル・コア・カリキュラムおよび熊本大学医学部医学科の学習成果の達成状況に基づいて評価を行う。A水準とは、上記GIOに基づき、目標水準を達成し、さらに自ら課題を設定し解決できる能力を保持している。C水準とは、上記GIOに基づき、目標水準を最低限達成している。				
授業の概要	個別学習目標SBO（Specific Behaviored Objective） 社会医学の分野として、下記項目に関して最新の情報も加味して講義を行う。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1	04/09	予防医学と健康保持増進①：加藤	総論、公衆衛生の概念と機能、予防医学の概念		
2	04/09	健康・疾病・障害の概念と社会環境：加藤	健康の概念、疾病・障害の概念と社会		
3	04/16	社会保障制度と医療経済①：加藤	日本社会の現状・未来、医療経済		
4	04/16	行動科学：加藤	人間の行動を決定する要因		
5	04/23	社会保障制度と医療経済②：増田	社会保障の概念と制度医療保険、介護保険、年金保険、公費医療		
6	04/23	疫学とその応用①：加藤	疫学概論：疫学の特徴、実践的方法論との違い		
7	05/07	疫学とその応用②：加藤	疫学研究に用いる指標：診断、感度や特異度		
8	05/07	環境保健①：加藤	総論、地域環境の変化と健康影響、上水道と下水道、廃棄物処理、居住環境		
9	05/14	学校保健①：高野	学校保健：学校医の役割、様々な学校保健活動・生徒のQOL①		
10	05/14	学校保健②：高野	学校保健：学校医の役割、様々な学校保健活動・生徒のQOL②		
11	05/21	疫学とその応用③：盧	統計解析と研究デザインについて		
12	05/21	保健・医療・福祉・介護の仕組み①：増田	保健・医療・福祉・介護の組織・施設と機能		
13	05/28	人口統計と保健統計①：増田	主な人口統計（人口静態と人口動態）		
14	05/28	保健・医療・福祉・介護の仕組み②：藤井	地域行政・保健所機能		
15	06/07	人口統計と保健統計②：増田	死因・疾病・障害の分類・統計		
16	06/07	予防医学と健康保持増進②：大森	健康保持・増進の概念、健康診断・診査と健康管理		
17	06/11	環境保健②：盧	環境と適応、地球環境の保全、発展途上国環境問題の一例		
18	06/11	国民栄養と食品保健：増田	国民栄養の現状と対策、食品の安全性と機能性		
19	06/18	母子保健①：盧	現状と動向、母性保健、周産期の保護		
20	06/18	母子保健②：盧	小児の保健・福祉 小児保健における予防接種の意義と内容、児童虐待		
21	06/20	地域保健、地域医療：佐土原	地域における我が国の医療供給体制の実際		

22	06/20	成人保健：大森	現状と動向、非感染性疾患〈NCD〉(生活習慣病を含む)と保健対策
23	06/25	保健・医療・福祉・介護の仕組み③：劔	地域保健の実践の場としての保健所機能
24	06/25	国際保健：劔	世界の保健・医療問題、国際保健・医療協力
25	06/27	産業保健①：大森	産業保健総論、実践的活動①
26	06/27	産業保健②：大森	産業保健総論、実践的活動②
27	06/27	精神保健福祉①：加藤	現状と動向、精神的健康の保持・増進①
28	06/27	感染症対策①：増田	感染症の疫学について
29	07/02	トピック①：小田	疫学調査の実際：国家プロジェクトによる大規模出生コホート「エコチル調査」について①
30	07/02	トピック②：小田	疫学調査の実際：国家プロジェクトによる大規模出生コホート「エコチル調査」について②
31	07/02	精神保健福祉②：盧	現状と動向、精神的健康の保持・増進②
32	07/02	感染症対策②：増田	医師と自治体の対応、予防接種と検疫
33	07/04	高齢者保健：盧	現状と動向、高齢者の健康保持・増進
34	07/04	保健・医療・福祉・介護の仕組み④：増田	保健・医療・福祉・介護従事者の現状と役割
35	07/04	産業保健③：加藤	リスクアセスメント、健康障害各論
36	07/04	産業保健④：加藤	働く人のためのメンタルヘルス不調対策
37	07/11	トピック③：盧	実際に使える医療統計
38	07/11	トピック④：増田	日常診療から感じる日本の医療の問題
39	07/11	感染症対策③：加藤	感染症疫学の実例 レジオネラ症集団感染事例
40	07/11	トピック⑤：加藤	社会医学の立ち位置 水俣病を通じて考える
授業外学修時間の目安		本科目は100時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は80時間分(2h×40コマ)となる。一層の知識を得るために、20時間分相当の事前・事後学修(課題等含む)を実行すると授業の理解を深めることができる。参考図書や新聞記事から社会医学的情報を収集を自ら学ぶことが望ましい。	
テキスト		特になし(各担当教官がプリント資料を作成する) 推薦図書：NEW予防医学・公衆衛生学、シンブル衛生公衆衛生学	
参考文献		1) シンブル衛生公衆衛生学、南江堂 2) NEW予防医学・公衆衛生学、南江堂 3) 厚生省の指標(臨時増刊)国民衛生の動向：厚生統計協会、東京 4) 基礎から学ぶ楽しい疫学(医学書院) 5) 医学的研究のデザイン、研究の質を高める疫学のアプローチ 第4版 メディカル・サイエンス・インターナショナル	
履修条件		公衆衛生分野の成果は、国や自治体などの政策、保健医療制度の見直し、新しい環境基準の設定とガイドライン作成などにもつながり社会的に重要な意味を持つ。第一線で働く臨床医としても、公衆衛生学、産業医学、予防医学、地域医療などの社会医学を学び、疫学的手法を習得することはますます重要となっている。公衆衛生分野の講義を受講には、いわゆる「public health mind」の習得できる社会性を有していることが条件となる。	
評価方法・基準		課題レポートと学士筆記試験成績による。学士筆記試験の受験資格は医学部規則第11条2項による。課題レポート・学士筆記試験の評価基準の合計は60点(60%)以上を合格とする。再試験は1回実施する。	
使用言語		「日本語と英語によるミックス」授業(日本語)	
教科書・資料の言語		「日本語と英語を併用した」テキスト(日本語)	
実務経験を 活かした授業		非該当	

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
MME4-830-62-0	2024通年	医学部(46081)	6	38	他
科目名(講義題目)			担当教員		
特別臨床実習（H26以降入用）(特別臨床実習(クリニカルクラークシップ、クリニカルインターンシップ))			吉田 素文, 王 百慧, 古川 昇, 尾池 雄一, 中村 公俊, 西谷 陽子, 高柳 宏史, 永芳 友, 阿南 浩太郎		
学修成果とその割合					
A) 豊かな人間性 ……15% B) 基本的診療能力 ……25% C) 自己研鑽とプロフェッショナリズム ……15% D) チーム医療と信頼される医療の実績 ……20% E) 医科学研究 ……5% F) 国際的視野 ……5% G) 地域医療 ……15%					
授業の形態	実技				
授業の方法	特別臨床実習（クリニカルクラークシップ、クリニカルインターンシップ）				
授業の目的	診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師として最低限必要な医学知識、臨床推論、臨床判断・技能・態度などの能力を以下の4項目を行うことを通して身につけることを目標とする。(1) 臨床推論に基づいた情報収集(医療面接、身体診察、基本的臨床手技、連絡・報告)。(2) 診療計画の立案(基礎的な医学的知識の獲得の機会を提供する、教科書文献的知識と検索技法、症例提示と検討会、診療録記載)。(3) 治療計画の実施(基本的治療手技、他医療職や患者への伝達、文書作成、連絡・報告)。(4) 診療・学習行動の基盤となる倫理・態度(医師のプロフェッショナリズム:患者や患者家族および他の医療職への接し方、自己の職業的能力とその限界に即した行動、助力と助言の受け入れ、自己学習への意欲 など)。 また平成28年度改訂版医学教育モデルコアカリキュラムの「G 臨床実習」の学修目標の習得を目的とする				
学修目標	【A水準】 この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、十分に達成しているレベルをA水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表 (http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/) を参照する。 学修成果について以下の項目について十分に達成しているレベルをA水準とする。 ① レベルA(診療や研究の現場で実践できる)の段階: A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野 (項目1, 2, 3, 4)、G. 地域医療と社会貢献 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6) ② レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階: E. 医科学研究 (項目1, 2, 3, 5) 医学教育モデルコアカリキュラムについては、「G 臨床実習」にある学修目標の獲得が十分にできており、初期臨床研修1年目修了レベルをA水準とする。 【C水準】 この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、最低限達成しているレベルをC水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表 (http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/) を参照する。 学修成果について以下の項目について最低限達成しているレベルをC水準とする。 ① レベルA(診療や研究の現場で実践できる)の段階: A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野 (項目1, 2, 3, 4)、G. 地域医療と社会貢献 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6) ② レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階: E. 医科学研究 (項目1, 2, 3, 5) 医学教育モデルコアカリキュラムについては、「G 臨床実習」にある学修目標の獲得が最低限達成し初期臨床研修開始レベルをC水準とする。				
授業の概要	クリニカルクラークシップ 5年次から6年次にかけて、1ターム3週間、合計13ターム、39週間。学生を13グループに分け、必修（産科婦人科、小児科、神経精神医学、地域医療）、選択必修（内科系、感覚運動系、外科系、総合系）、選択（学生の希望をもとに配属、5ターム）を周る。6年次は第11タームから第13タームまで。 クリニカルインターンシップ 6年次、1ターム3週間、合計2ターム、6週間。各診療科に配属され、診療参加型の臨床実習を行う。配属診療科は学生の希望をもとに調整する。 実習の詳細は「特別臨床実習の手引き」を参照すること。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		クリニカルクラークシップ	5年次から6年次にかけて、1ターム3週間、合計13ターム、39週間。学生を13グループに分け、必修（産科婦人科、小児科、神経精神医学、地域医療）、選択必修（内科系、感覚運動系、外科系、総合系）、選択（学生の希望をもとに配属、5ターム）を周る。診療チームの一員として、病棟、外来、検査室、手術室等での患者診療に参加する。実習内容は各実習先から提示される。		
2		クリニカルインターンシップ	6年次、1ターム3週間、合計2ターム、6週間。各診療科に配属され、診療参加型の臨床実習を行い卒後の臨床研修への橋渡しとする。配属診療科は学生の希望をもとに調整する。		
授業外学修時間の目安		本科目は、1710時間の学修が必要な内容で構成されている。実習は1710時間分となる。			
テキスト		なし			
参考文献		なし			
履修条件		CBT、OSCEを合格し、Student Doctorの称号を付与された者。			
評価方法・基準		特別臨床実習の総括的評価は、特別臨床実習中の観察評価、統合卒業試験、臨床実習後OSCEによる。特別臨床実習中の観察評価は、指導教員（あるいは指導医）による評価を各講座で行い、集計する。実習にやむを得ない理由（傷病・事故・忌引など）なく欠席、遅刻、早退したものは評価対象としない。全講座での観察評価合計60%以上で合格とする。 統合卒業試験本試験は、正答率65%以上を合格とする。統合卒業試験は1回のみ再試験を行う。再試験は正答率70%以上で合格とする。臨床実習後OSCEも合格基準を満たせば合格とする。 特別臨床実習観察評価、統合卒業試験、臨床実習後OSCEすべてで合格基準を満たすことが必要である。			
使用言語		「日本語」による授業			
教科書・資料の言語		「日本語」のテキスト			
実務経験を活かした授業		該当(実臨床を実施している教員の指導の下、学生は診療チームに参加し、その一員として業務を担当しながら実務を学ぶ。)			

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
MME1-140-79-0	2024通年	医学部(20160)	5	1	他
科目名(講義題目)			担当教員		
地域医療総合演習(地域医療総合演習)			高柳 宏史, 松井 邦彦		
学修成果とその割合					
A) 豊かな人間性 ……10% B) 基本的診療能力 ……10% C) 自己研鑽とプロフェッショナリズム ……20% D) チーム医療と信頼される医療の実績 ……10% E) 医科学研究 ……10% G) 地域医療 ……40%					
授業の形態	講義・演習				
授業の方法	本演習を履修している学生が、地域枠学生を対象とした地域医療ゼミの一コマで教育セッションを実施・担当する。そのために、担当教員から適宜指導を受けながら計画的に準備し、実施後の評価までの一連の教育指導活動を通して学修する。また最後にはそれらの経験をまとめ報告書を作成する。				
授業の目的	地域医療総合演習は医学部医学科5年次の学生が選択できる選択科目である。この演習では、様々な地域で行う診療において医師が求められる資質や能力の中から一つのテーマを選択し協働的に学修することに加えて、教育を実践するために必要な基礎的な知識について学修する。そして、選択したテーマについて地域医療ゼミに参加する後輩や同僚に対して教育を実践する。教育的な実践やその準備などの一連の経験を通して、テーマについて深い学びを得ることや将来の医療者教育の素地を涵養することを目的とする。				
学修目標	【A水準】 本演習の到達目標は、熊本大学医学部医学科教育成果においては、以下の項目はレベルA（診療や研究の現場で実践できる）の能力を獲得することとする。 A.豊かな人間性、B.基本的診療能力、C.自己研鑽とプロフェッショナリズム、D.チーム医療と信頼される医療の実践、E.医科学研究、G.地域医療と社会貢献。 【C水準】 各回の演習の取り組みに参加し、教育実践のために役割を持ち、最終成果物作成に関わることとする。				
授業の概要	11月21日（木）の地域医療ゼミ（18時～19時30分）で教育セッションを実施するために、8月を除いた4月から10月までの第2木曜日の夕方18時から演習を行う。教員のレクチャーののち、グループでディスカッションし各回で11月の教育セッションの準備を進める。各自または協同的な取り組みで教育セッションで取り扱うテーマについては学修を行う。 地域医療ゼミでの教育セッション後には、事後アンケートの集計と分析を行う。12月には集計結果を参考に実施者として振り返り、カリキュラム評価を実施する。一連の取り組みをまとめて、最後に報告書を作成し提出する。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		地域医療総合演習 1	教育計画書とは。教育計画書作成のための基礎知識		
2		地域医療総合演習 2	学習者のレディネスの把握ならびに教育テーマ決定のための事前アンケートの作成と準備		
3		地域医療総合演習 3	事前アンケートの集計と分析。教育テーマの決定。		
4		地域医療総合演習 4	教育計画書作成のための教育方略についての基礎知識と方略の決定		
5		地域医療総合演習 5	教育計画書作成のための学習者・カリキュラム評価に関する基礎知識と評価の決定		
6		地域医療総合演習 6	教育セッション実施のための準備・予演・役割分担などの確認 事後アンケートの作成		
7		地域医療総合演習 7	11月21日の地域医療ゼミにおいて、準備した教育セッションを実施。事後アンケートの実施。		
8		地域医療総合演習 8	事後アンケートの集計・分析を行い、カリキュラム評価を行う。 報告書作成の準備		
授業外学修時間の目安	本演習は1単位（45時間）の学修が必要な内容で構成されている。演習は1.5h×8コマ＝12時間分であるため、残りの32時間は、事前・事後学修が演習の理解を深めるために必要となります。				
テキスト	演習の中で掲示します				
参考文献	演習の中で掲示します				
履修条件	医学部医学科5年次				
評価方法・基準	「全8回の演習における取組」と「演習時間外における学修や教育の実践のための取組」に対して総括評価を行う				
使用言語	「日本語」による授業				
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト				
実務経験を活かした授業	該当（地域における診療経験を活かして、将来地域で診療する際に求められる知識や内容について学生にフィードバックをしながら学修をすすめていく）				

医政第344号
令和6年（2024年）8月16日

厚生労働省医政局長 様

熊本県健康福祉部長

地域の医師確保のための入学定員増に係る誓約書

令和6年（2024年）8月7日付け6文科高第738号、医政発0807第5号に基づき、下記のとおり、令和7年度における地域の医師確保のための入学定員増を行うこととしました。

地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」第4条に規定する都道府県計画等に沿って、地域枠入学者が地域に定着するよう取組を行います。

記

増員数

4名

・熊本大学医学部における地域枠：4名

担 当：熊本県健康福祉部健康局医療政策課

企画・医師確保班 村川

電話番号：096-333-2204

E-mail: murakawa-y@pref.kumamoto.lg.jp

教 育 課 程 等 の 概 要																				
(医学部医学科)																				
科目 区分				授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
							必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹（ 助手を 除く） 教員	
基礎科目	外国語科目	自由選択 外国語科目	必修外国語科目	英語A-1	1前・後		1			○							17			
			英語A-2	1前・後		1			○								22			
			英語B-1	1前・後		1			○								18			
			英語B-2	1前・後		1			○								16			
			英語e	1前・後		1			○								13			
			英語Ⅰ-1	1前			1			○									1	
			英語Ⅰ-2	1後			1			○									1	
			英語Ⅱ-1	2前			1			○									1	
			英語Ⅱ-2	2後			1			○									1	
			英語Ⅲ-1	2前			1			○									1	
			英語Ⅲ-2	2後			1			○									1	
			ドイツ語Ⅰ-1	1前			1			○									1	
			ドイツ語Ⅰ-2	1後			1			○									1	
			ドイツ語Ⅱ-1	2前			1			○									1	
			ドイツ語Ⅱ-2	2後			1			○									1	
			ドイツ語Ⅲ-1	2前			1			○									1	
			ドイツ語Ⅲ-2	2後			1			○									1	
			フランス語Ⅰ-1	1前			1			○										1
			フランス語Ⅰ-2	1後			1			○										1
			フランス語Ⅱ-1	2前			1			○										1
			フランス語Ⅱ-2	2後			1			○										1
			フランス語Ⅲ-1	2前			1			○										1
			フランス語Ⅲ-2	2後			1			○										1
			中国語Ⅰ-1	1前			1			○										1
			中国語Ⅰ-2	1後			1			○										1
			中国語Ⅱ-1	2前			1			○										1
			中国語Ⅱ-2	2後			1			○										1
			中国語Ⅲ-1	2前			1			○										1
			中国語Ⅲ-2	2後			1			○										1
			コリア語Ⅰ-1	1前			1			○										1
			コリア語Ⅰ-2	1後			1			○										1
			コリア語Ⅱ-1	2前			1			○										1
			コリア語Ⅱ-2	2後			1			○										1
			コリア語Ⅲ-1	2前			1			○										1
			コリア語Ⅲ-2	2後			1			○										1
			ロシア語Ⅰ-1	1前			1			○										1
			ロシア語Ⅰ-2	1後			1			○										1
			ロシア語Ⅱ-1	2前			1			○										1
			ロシア語Ⅱ-2	2後			1			○										1
			ラテン語Ⅰ-1	1前			1			○										1
			ラテン語Ⅰ-2	1後			1			○										1
			スペイン語Ⅰ-1	1前			1			○										1
			スペイン語Ⅰ-2	1後			1			○										1
			スペイン語Ⅱ-1	2前			1			○										1
			スペイン語Ⅱ-2	2後			1			○										1
			ヘブライ語Ⅰ-1	1前			1			○										1
			ヘブライ語Ⅰ-2	1後			1			○										1
			イタリア語Ⅰ-1	1前			1			○										1
			イタリア語Ⅰ-2	1後			1			○										1
			小計（49科目）				—	—		5	44	0	—			0	0		0	0
情報科目	理系基礎科目	ICTリテラシー	1前			2				○							8			
		DSリテラシー	1後			2				○							8			
		小計（2科目）				—	—		4	0	0	—			0	0	0	0	8	
		数学概論	1前			2				○							1			
		統計学概論	1後			2				○							1			
		物理学Ⅰ	1前			2				○							1			
		化学Ⅰ	1前			2				○							1			
		物理学Ⅱ	1後				2			○							1			
		化学Ⅱ	1後				2			○							1			
		小計（6科目）				—	—		8	4	0	—			0	0	0	0	5	
		文系のための数学入門	1・2前・後・ ①・②・③・ ④				1又は2		○							1				
		数学の世界	1・2前・後・ ①・②・③・ ④				1又は2		○							2				

教養教育	リベラルアーツ科目	物理学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									8
		教養の化学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									3
		生物の世界	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									11
		地球環境の現状と人類	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									1
		持続可能な都市と地域づくり	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									1
		豊かさを持続させるものづくり	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									2
		日々の生活に垣間見る情報と通信	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									1
		倫理学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									2
		心と世界	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									1
		思考と論理	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									1
		現代心理行動学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									3
		こころの科学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									1
		芸術文化論	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									2
		言語の諸相	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									1
		文学の諸相	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									3
		モノが語る歴史	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									4
		地域の世界史	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									4
		日本社会の歴史	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									3
		法学の基礎	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									3
教養科目		現代経済問題の諸相	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									1
		現代政治の諸相	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									1
		最前線の社会文化研究	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									9
		現代社会の解説	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									4
		自然と人間の地理学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									2
		小計（26科目）	—	—	0	26又は52	0	—		0	0	0	0	0	0	75
		数学と文化	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									1
		物理学の世界	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									1
		暮らしと化学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○									4
		化学と環境	1・3前・後・①・②・③・④			1又は2	○									3
		最先端の生命科学	1・4前・後・①・②・③・④			1又は2	○			1						4
		地球環境科学の最前線	1・5前・後・①・②・③・④			1又は2	○									5
		地域づくりと科学技術	1・6前・後・①・②・③・④			1又は2	○									4
		ものづくりの科学と技術	1・7前・後・①・②・③・④			1又は2	○									6
		暮らしと情報・通信技術	1・8前・後・①・②・③・④			1又は2	○									1

現代 教養 科目	健康の科学	1・9前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									2
	病気の医科学	1・10前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○			2						
	臨床医学の最前線	1・11前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○			2						
	現代社会と医学	1・12前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○			1						
	心身の健康と看護	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									3
	医療における理工学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									1
	現代の医学検査	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									1
	現代医療と生命科学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									2
	薬科学入門	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									2
	現代社会と薬学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									3
	現代教育について考える	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									8
	心理学の探求	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									2
	芸術への招待	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									2
	現代と言語	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									2
	現代と文学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									4
	現代世界の形成と課題	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									4
	最先端の法学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									1
	現代社会と経済	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									3
	現代の政治	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									5
	学際科目	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									6
	小計（29科目）	—	—	0	29又は58	0	—	—	—	6	0	0	0	0	0	76
M u l t i d i s c i p l i n a r y S t u d i e s	Introduction to Science and Technology I	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									4
	Introduction to Science and Technology II	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									1
	Socio-Cultural Studies	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									5
	World History	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									1
	Academic Foundations	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									3
	Area Studies	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									5
	Comprehensive English Communication	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									1
	Global Career Development	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									2
	小計（8科目）	—	—	0	8又は16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	8
キ ャ リ ア	キャリア科目	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									9
	小計（1科目）	—	—	0	1又は2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	9
開 放 科 目	開放科目	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○									6
	小計（1科目）	—	—	0	1又は2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	6
（ 学 科 目 ） ボ ー デ ー ス ・ 科 学	体育・スポーツ科学a	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1		○									11
	小計（1科目）	—	—	0	1	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	11

専門教育	専門基礎科目	医療情報Ⅰ	1前・後	○	0.5			○			1						
		医学生物学	1前・後	○	1			○			2				2		
		地域医療・福祉体験実習コース	1前・後	○	1					○	6				4		
		熊本大学病院医療体験実習コース	2前・後	○	1					○	6				4		
		医学総論	1前・後	○	2.5			○			3				1		
		医学英語	2前・後	○	1.5			○			4	3	1		6		
		地域医療総合演習	5前・後	○		0.5			○		1		1				
		小計（7科目）	—	—	7.5	0	0.5	—			15	3	2	9	0	0	
		基礎医学科目	遺伝医学	1前・後	○	1			○			2	2	1			
			肉眼解剖学	1前・後	○	1			○			2					
	人体発生学		1前・後	○	0.5			○			3	1	1				
	骨学実習		1前・後	○	0.5					○	1		1		2		
	解剖実習		2前・後	○	4.5					○	1		1		2		
	神経解剖学		2前・後	○	2			○			1		1		1		
	組織学講義		1前・後	○	2			○			1				1		
	組織学実習		2前・後	○	1.5					○	1				1		
	生化学		1前・後	○	1.5			○			4	1			1		
	生理学Ⅰ		1前・後	○	2			○			1						
	生理学Ⅱ		2前・後	○	1.5			○			1	1	1		1		
	免疫学		2前・後	○	1.5			○			1		1		2		
	微生物学		2前・後	○	3.5			○			1		1		1		
	薬理学		2前・後	○	2			○			1				2		
	病理学		2前・後	○	4.5			○			2	1			2		
	腫瘍医学		2前・後	○	1.5			○			3						
	研究室配属		3前・後	○	12.5				○		32	11	7	26			
	小計（17科目）		—	—	43.5	0	0	—			36	12	7	27	0	0	
	臨床医学科目		臨床医学Ⅰ	2通	○	4.5			○			34	26	45	104		
			臨床医学Ⅱ	3通	○	20.5			○			34	26	45	104		
			臨床医学Ⅲ	4通	○	10.5			○			34	26	45	104		
			臨床医学Ⅳ	4通	○	8			○			34	26	45	104		
			臨床実習Ⅰ	4・5通	○	49					○	34	26	45	104		
			臨床実習Ⅱ	5・6通	○	29					○	34	26	45	104		
			小計（6科目）	—	—	121.5	0	0	—			34	26	45	104	0	0
	社会科学目医学		社会医学	4通	○	6.5			○			6	1		7		
			小計（1科目）	—	—	6.5	0	0	—			6	1	0	7	0	0
	みらい医療科目		みらい医療演習Ⅰ	1通	○			8	○			1					
			みらい医療演習Ⅱ	2通	○			0.5	○			1					
			みらい医療演習Ⅲ	3通	○			8	○			1					
			みらい医学セミナーⅠ	1通	○			0.5	○			1					
			みらい医学セミナーⅡ	2通	○			8	○			1					
			みらい医学セミナーⅢ	3通	○			0.5	○			1					
			みらい医学セミナーⅣ	4通	○			0.5	○			1					
		みらい医学セミナーⅤ	5通	○			0.5	○			1						
		みらい医学セミナーⅥ	6通	○			0.5	○			1						
		小計（9科目）	—	—	0	0	27.0	—			1	0	0	0	0	0	
合計（163科目）			—	—	196.0	114～179	27.5	—			67	37	52	132	0	250	
学位又は称号		学士（医学）				学位又は学科の分野				医学関係							
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等							
医学科に6年以上在学し、教養教育において必修科目19単位（物理学Ⅱ（2単位）、化学Ⅱ（2単位）のいずれを選択必修として含む。）及び選択科目10単位以上を修得、また、専門教育において必修科目179単位を修得した者を卒業と認定する。										1学年の学期区分			2期				
										1学期の授業期間			15週				
										1時限の授業の標準時間			90分				